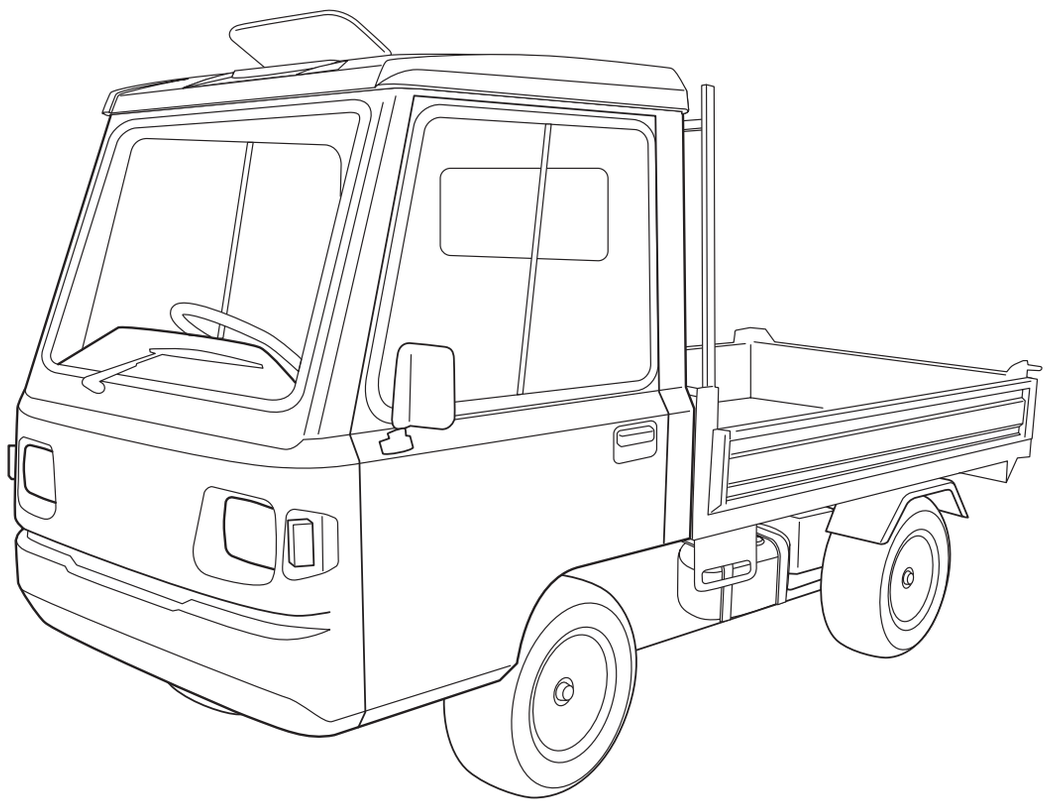
CANYCOM

小型特殊自動車
Ｊ２００

取扱説明書



⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。
・本書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも参照できるように大切に保管してください。

3724 6101 000 01

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396　福岡県うきは市吉井町福益90-1
TEL (0943)75-2195（代）　FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

■本社営業部 TEL 0943(75)2195 FAX (75)4396
■貿易センター TEL 03(3552)6277 FAX (3552)6288
■東京センター TEL 03(3552)6255 FAX (3552)6288
■仙台センター TEL 022(281)1255 FAX (281)3141
■埼玉センター TEL 0495(77)4511 FAX (77)1561
■大阪センター TEL 0790(42)6031 FAX (42)6035
■広島センター TEL 0824(34)5996 FAX (34)5997
■松山センター TEL 089(983)2701 FAX (983)5749
■福岡センター TEL 0943(76)2583 FAX (75)5126
■鹿児島センター TEL 0995(58)3011 FAX (58)2344

連絡先控え（販売店名）

本書の無断転載、複写を禁止します。

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。
また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。
なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

⚠ 警　告

・本書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

・本書は本製品の運転または保守・点検を行う場合にいつでも参照できるように大切に保管してください。

・本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

・本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警　告　用　語	意　味
⚠ 危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う場合に使用されます。
⚠ 警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠ 注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
アドバイス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

保証とアフターサービスについて

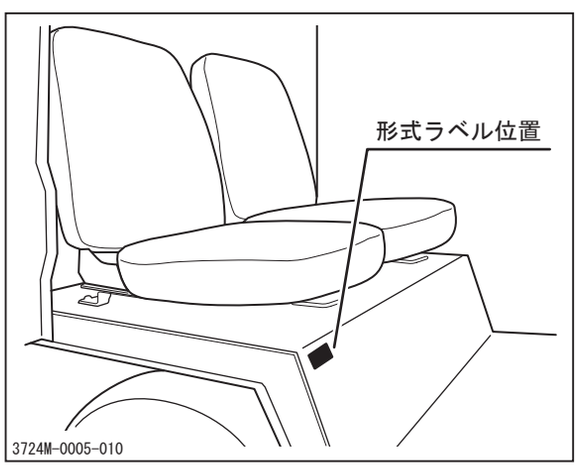
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは本書巻末に貼付の保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。
搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の**「本製品の仕様」**を参照してください。（☞11ページ）

型式ラベル位置



型式ラベル

補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目　　次

１．安全に関する注意事項　1

本製品に添付してある警告ラベルについて ・・・・・・・・・・・・ 1

安全運転・作業のための心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

運転前の心得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

運転のしかた ・・・

走行装置 ····· 47
タイヤ空気圧の点検・調整 ····· 47
トランスファーオイルの点検・補給・交換 ····· 48
トランスミッションオイルの点検・補給・交換 ····· 49
ディファレンシャル（デフ）オイルの点検・補給・交換 ····· 50
ブレーキの点検 ····· 52
給脂 ····· 54
油圧系統 ····· 54
パワーパッケージオイルの点検・補給・交換 ····· 55
パッケージ・コンプレッサベルトの点検・調整 ····· 56
電装品 ····· 57
バッテリ液の点検・補給・充電 ····· 57
ライトバルブの交換 ····· 59
ヒューズの交換 ····· 60
使用後のお手入れ ····· 61
通常使用後のお手入れ ····· 61
寒冷期使用後のお手入れ ····· 61
長期保管のしかた ····· 62

6．不具合発生時の処置 63
不具合診断表 ····· 63
ダイアグノーシス（診断）機能 ····· 66

7．本機の移送および本機での移送 68
本機の移送 ····· 68

トラックへの積み降ろし要領 ・・・

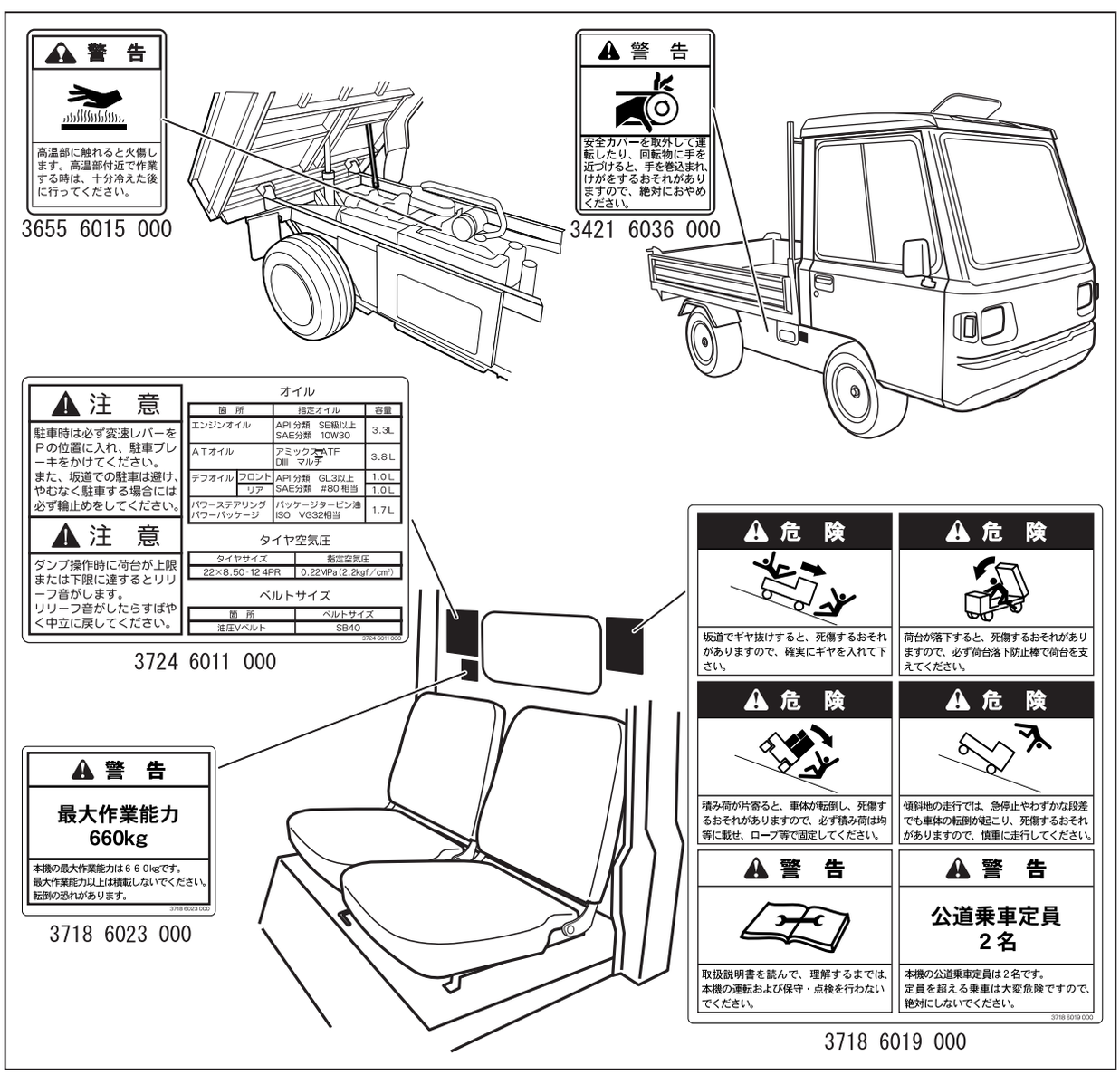
本製品に添付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが添付してあります。
この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

・警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。

・警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
　また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。

・警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。



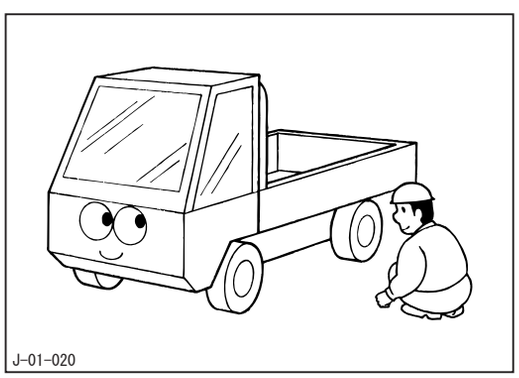
安全運転・作業のための心得

運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

運転前の心得

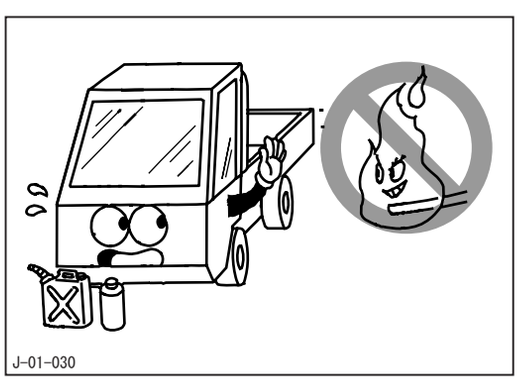
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



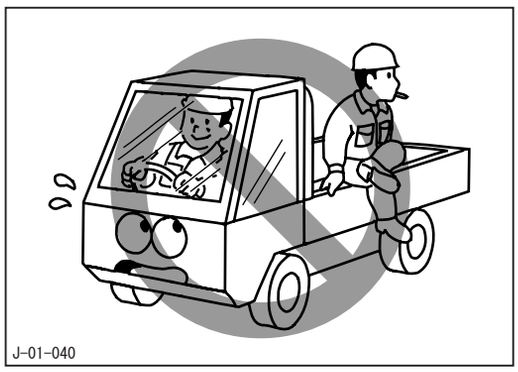
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。

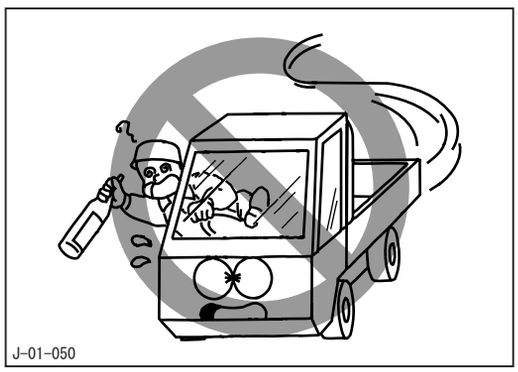


火気厳禁

燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。

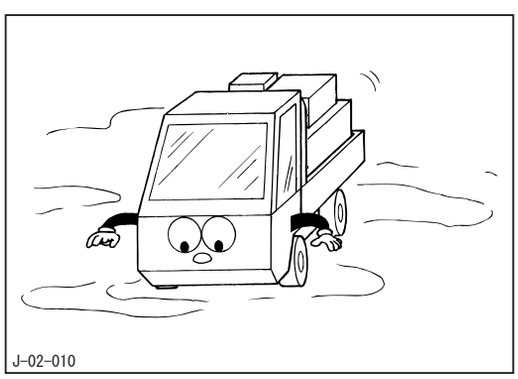


乗車定員厳守
乗車装置以外の乗車は、大変危険ですので、定員をオーバーしての乗車は絶対にしないでください。

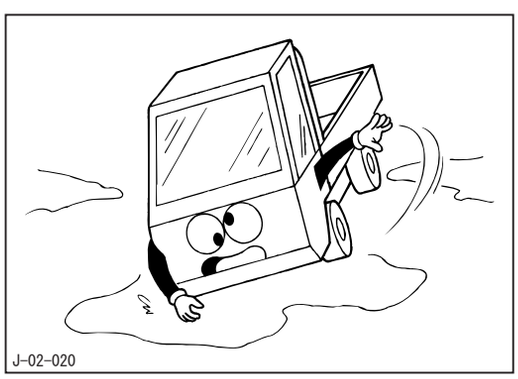


無謀運転禁止
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない若年者による運転・作業も行わないでください。

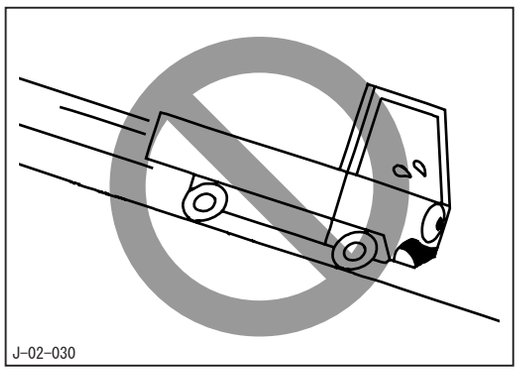
走行時の心得



安全速度遵守
発進の前には必ず周囲の安全を確認し、走行時は走行路の勾配、路面の状態に応じた安全速度で走行してください。

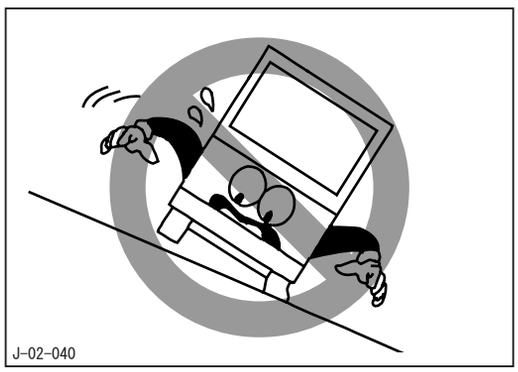


急発進、急加速、急旋回、急停止の禁止
急発進、急加速、急旋回および急停止を行わないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。



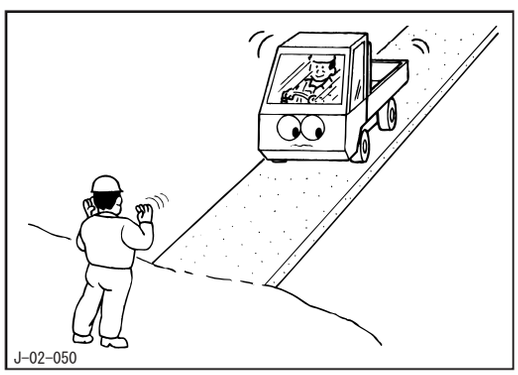
下り坂では低速で走行する

下り坂の前で一旦停止した後、変速レバーを「L（ロー）」に入れ、下るときにはエンジンブレーキを使用しながら低速で走行してください。



斜面の横断禁止

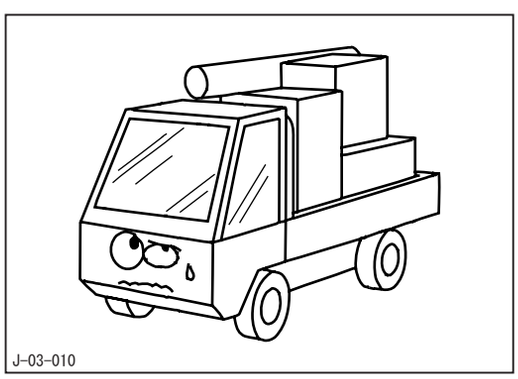
斜面はまっすぐ上り下りし、斜面を横断しないでください。運転者が振り落とされたり、車両がスリップや転倒をしたりするおそれがあり危険です。特に軟弱な地盤やぬれた路面では注意してください。また、斜面での旋回は乗車姿勢が不安定になり危険ですので、行わないでください。



危険な場所では誘導者の指示に従う

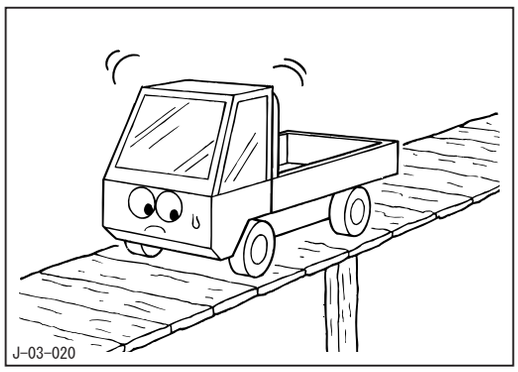
見通しの悪い場所や幅の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得



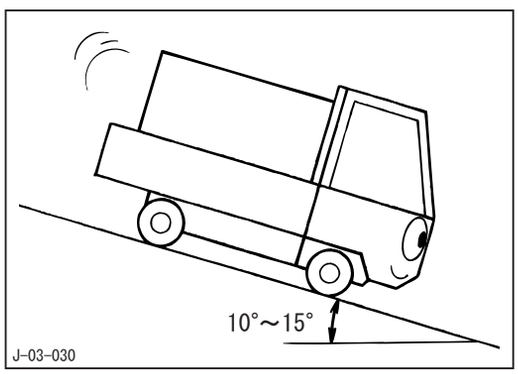
過積載禁止

本製品の最大作業能力を超える積載はしないでください。



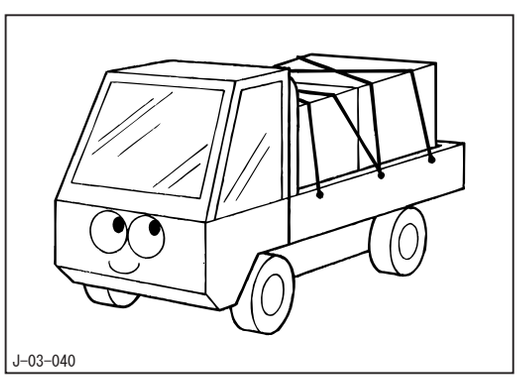
制限重量に注意

木橋等を渡る時は、機械質量と積載量および運転者の体重の総和が木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



傾斜地での積載量に注意

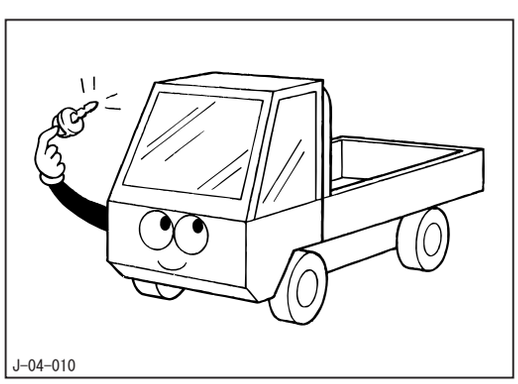
10°～15°の傾斜地では、積載量を300kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品を使用しないでください。



積荷は正しく載せる

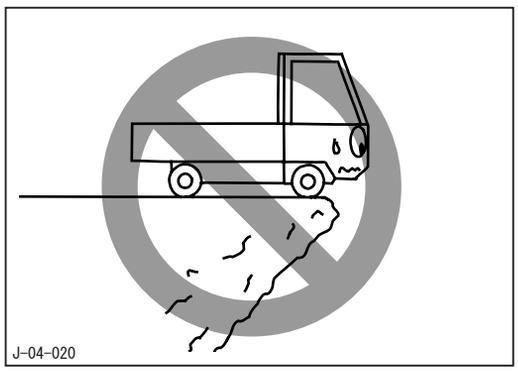
積荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定してください。また、積荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得



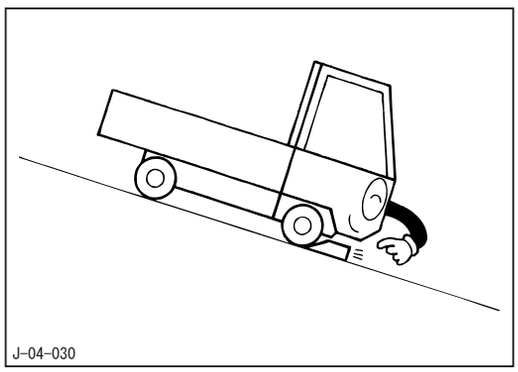
駐車時の安全確認

駐車時には必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



危険な場所での駐停車禁止

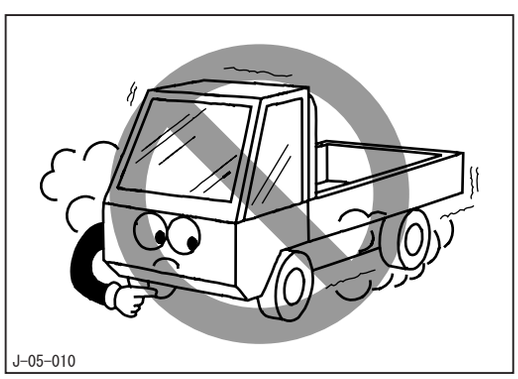
駐停車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐停車しないでください。



傾斜地での輪止め励行

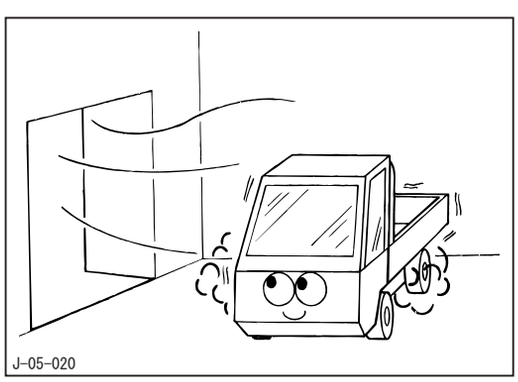
傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する際には、変速レバーを「P」の位置に入れ、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。

整備時の心得



エンジン回転中の整備禁止

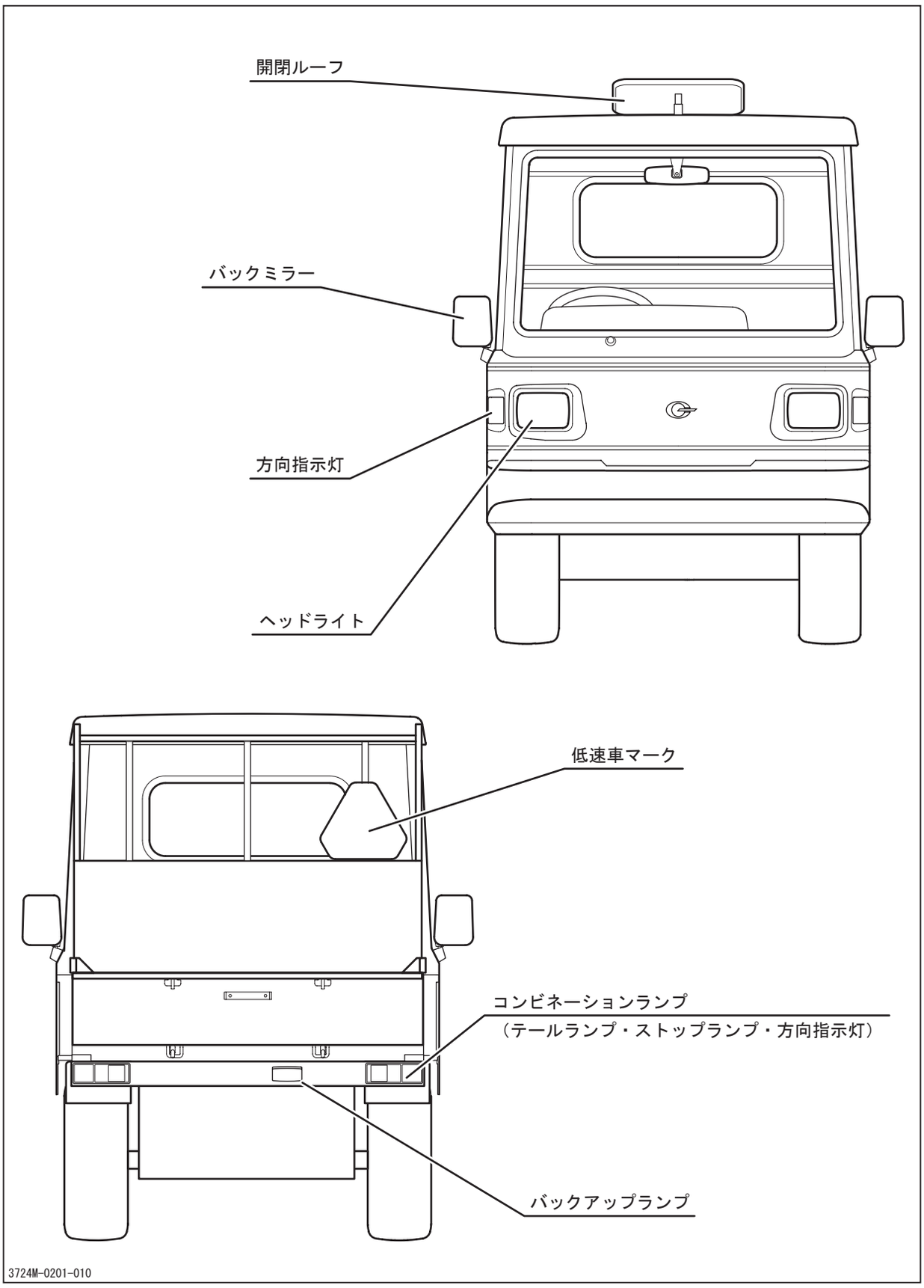
エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備を行ってください。

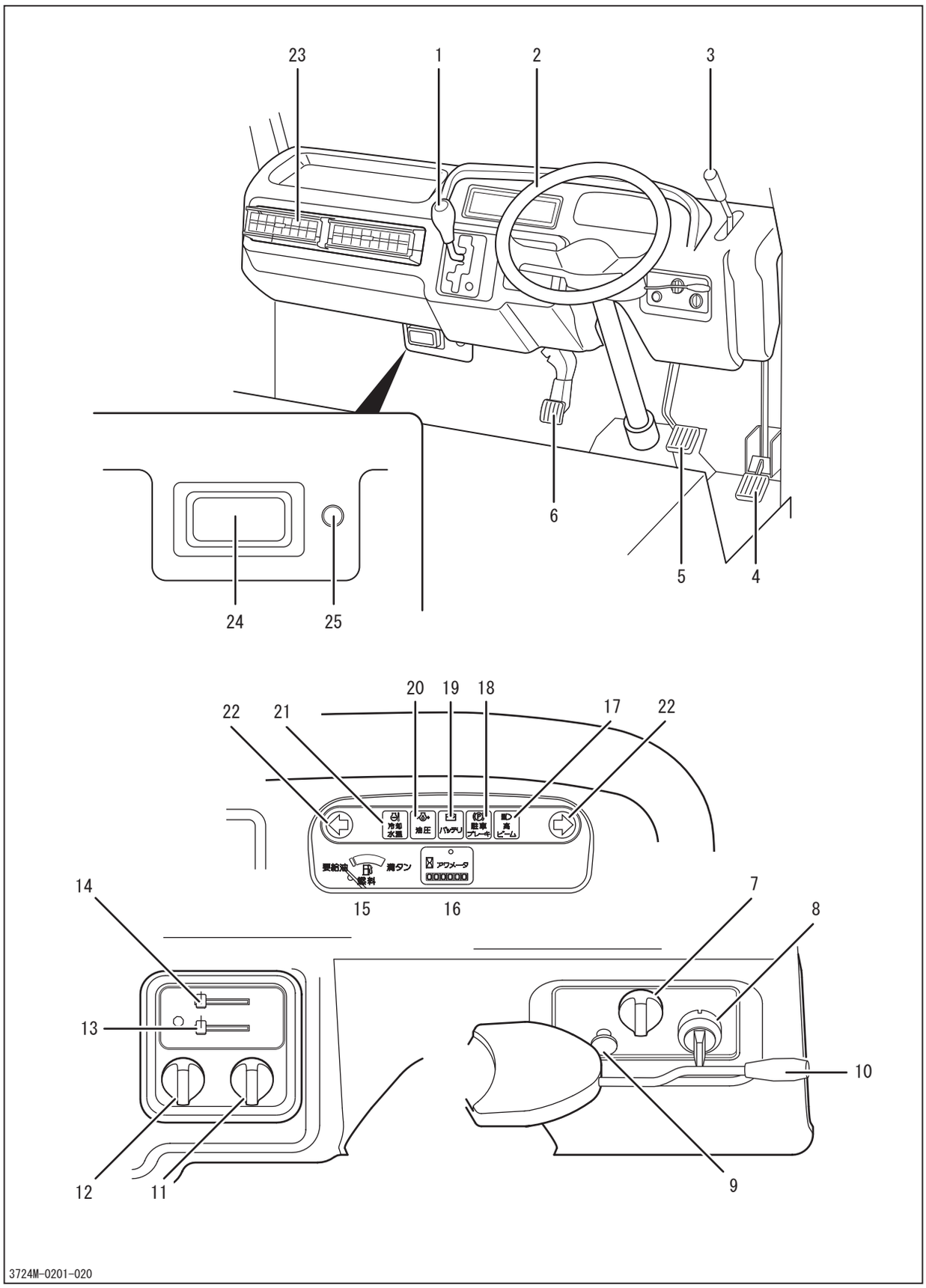


換気に注意

室内でエンジンを運転する場合は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくして作業を行ってください。

各部の名称とはたらき


開閉ルーフ
バックミラー
方向指示灯
ヘッドライト
低速車マーク
コンビネーションランプ
（テールランプ・ストップランプ・方向指示灯）
バックアップランプ
3724M-0201-010


23
1
2
3
6
5
4
24
25
20
19
18
22
21
17
22
冷却水温
油圧
バッテリ
駐車ブレーキ
走ビーム
要給油
軽油
前ダン
アワメータ
15
16
14
7
8
13
10
12
11
9
3724M-0201-020

1　**変速レバー** ・・・・・・・・・・・・・・・・車両の走行速度を切り替えるとき使用します。

2　**ハンドル** ・・・・・・・・・・・・・・・・・操舵に使用します。

3　**ダンプレバー** ・・・・・・・・・・・・・・荷台の上昇または下降を行うときに使用します。

4　**アクセルペダル** ・・・・・・・・・・・・エンジン回転数の増減を行います。

5　**ブレーキペダル** ・・・・・・・・・・・・車両を減速または停止させるときに使用します。

6　**駐車ブレーキペダル** ・・・・・・・・車体を駐車させるときに使用します。ペダルを踏み込むと駐車ブレーキがかかり、ペダルが踏み込んだ位置で止まります。もう一度踏み込むと解除され、ペダルが元の位置に戻ります。

7　**ライトスイッチ** ・・・・・・・・・・・・前照灯とテールランプを点灯または消灯させるときに使用します。前照灯は「 」の位置で下向き、「 」の位置で上向きにすることができます。

8　**メインスイッチ** ・・・・・・・・・・・・エンジンを始動および停止させます。

9　**チョークレバー** ・・・・・・・・・・・・エンジンを始動させるときに使用します。レバーを引くとチョークバルブが閉じ、レバーを戻すとチョークバルブが開きます。

10 **方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチ** ・・・・・・・・方向指示灯を点滅させるとき、またはホーンを鳴らすときに使用します。レバーを上にすると左側が点滅し、下にすると右側が点滅します。手前に引くとホーンが鳴ります。

11 **ワイパスイッチ** ・・・・・・・・・・・・ワイパを作動させるときに使用します。

12 **ヒータースイッチ** ・・・・・・・・・・ヒーターを使用するときに使用します。

13 **ファンスイッチ** ・・・・・・・・・・・・クーラーを使用するときに使用します。

14 **温度調整スイッチ** ・・・・・・・・・・クーラーの温度を調整するときに使用します。

15 **燃料計** ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・燃料の残量を表示します。

16 アワメータ ・・・・・・・・・・・・・・・・累積走行時間を0.1時間単位で表示します。

17 ハイビームランプ ・・・・・・・・・・・前照灯を上向きにすると点灯します。

18 駐車ブレーキランプ ・・・・・・・・・メインスイッチが「入」の時、駐車ブレーキをかけると点灯します。

19 チャージランプ ・・・・・・・・・・・・バッテリの充電状態が正常かどうかを示します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。

20 オイルランプ ・・・・・・・・・・・・・・エンジンオイルの油圧が正常かどうかを示します。エンジン始動後、消灯すれば正常です。

21 冷却水温ランプ ・・・・・・・・・・・・冷却水温が異常に上昇（オーバーヒート）したときに点灯します。

22 方向指示ランプ ・・・・・・・・・・・・方向指示灯を操作すると点滅します。

23 クーラー吹き出し口 ・・・・・・・・・クーラーからの冷気を吹き出します。ルーバーで冷気の方向を調整できます。

24 ダイアグノーシススイッチ ・・エンジンの状態を診断し、問題がある場合エラーを表示します。

25 ダイアグノーシスランプ ・・・・エンジンに問題が発生した時、点滅します。

本製品の仕様

⚠ 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名称・型式				J200
機械質量			kg	880
最大作業能力			kN(kg)	6.46 (660)
機械寸法	全長		mm	3350
	全幅		mm	1320
	全高		mm	1800
	ホイールベース		mm	1690
	トレッド	前	mm	1030
		後	mm	1030
	最低地上高		mm	170
	床面高さ		mm	735
荷箱	形式			箱型三方開
	荷箱内側寸法	長さ	mm	1850
		幅	mm	1195
		高さ	mm	200
エンジン	名称			ダイハツ DM700G
	形式			水冷４サイクルガソリン
	シリンダ(内径×行程)		mm	68×64
	総排気量		cm^3(cc)	697(697)
	最大出力		kw(PS)/rpm	16.2(22.0)/3000
	最大トルク		N･m(kgm)/rpm	50.8(5.2)/2200
	始動方式			セルフスタータ式
	使用燃料			ガソリン
	燃料消費率		g/kW･h(g/PS･h)	288(212)
	燃料タンク容量		ℓ	16
	潤滑油容量		ℓ	3.0(オイルフィルタ交換時 3.3)
	点火方式			電子点火
	点火プラグ品番			NGK BKR4E
電装	バッテリ形式			40B19R
	バッテリ容量		V/AH	12/28
	ヘッドライト容量		V/W	12/35

3 製品仕様

名称・型式				J200
走行性能	走行速度	L	km/h	9.5
		D	km/h	14.6
		R	km/h	6.3
	最小回転半径		m	3.3
	登坂能力		度	20(空車)
	最大安定傾斜角度	左	度	30(空車)
		右	度	30(空車)
動力伝達装置	主変速形式			油圧制御プラネタリーギヤ方式
	ブレーキ形式			油圧内拡式ブレーキ
	タイヤサイズ	前輪		22×8.50-12
		後輪		22×8.50-12
	トランスミッション油量		ℓ	3.8
	ディファレンシャル（デフ）油量	フロント	ℓ	1.0
		リア	ℓ	1.0
油圧装置	ダンプ方式			一方油圧ダンプ
	油圧ポンプ形式			ギヤポンプ式
	定格回転速度		min^{-1}(rpm)	1500
	定格吐出量		ℓ/min	6.7
	リリーフ設定圧		MPa(kg/cm^2)	13.7 (140)
	シリンダ（内径×行程）		mm	50×200
	油圧作動油量		ℓ	1.7
	最大上昇角度		度	60
	上昇時間		秒	4～6
	下降時間		秒	3～5

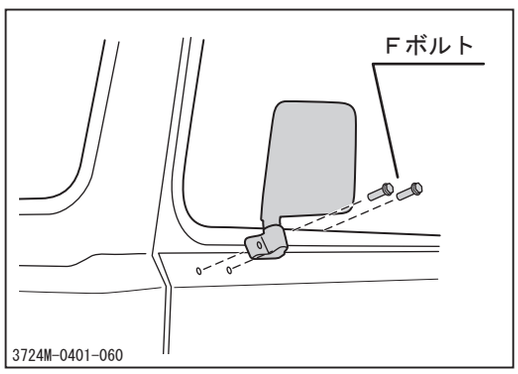
※この仕様は、改良のため予告なく変更する場合があります。

付属品明細

No.	部　　品　　名	個　　数	備　　考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	ダンプ防止ボルト	2	
4	ミラー	2	左右一式
5	ボックス	1	
6	チェーンAssy	1	

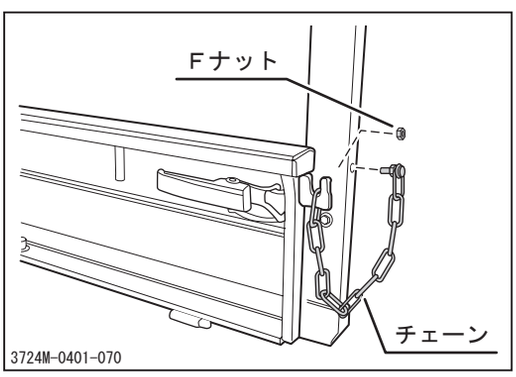
運転前の準備

付属品の取り付け



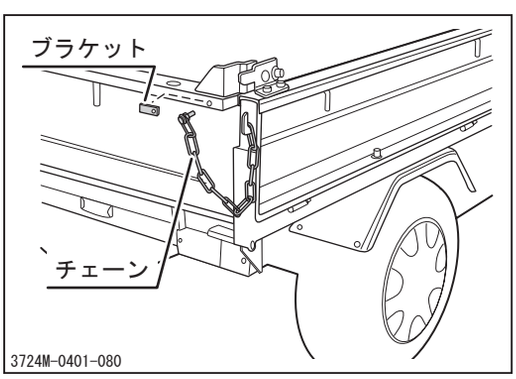
ミラーの取り付け

1. ミラーをFボルトで取り付けます。



荷台チェーンの取り付け

1. Fナットをアーチの裏側に通し、アーチ部にチェーンを取り付けます。



2. ブラケットを後ドアの裏側に通し、後ドア部にチェーンを取り付けます。

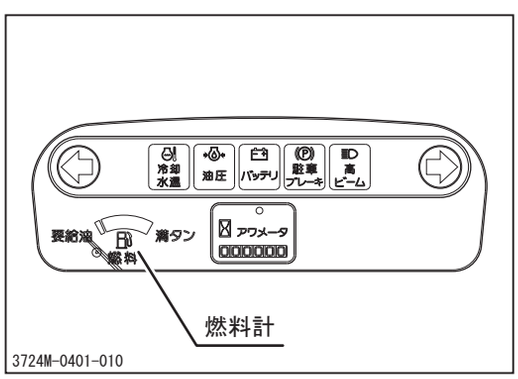
始業点検

運転前には必ず始業点検を行ってください。
点検の要領については**「定期点検表」**（☞32ページ）を参照してください。

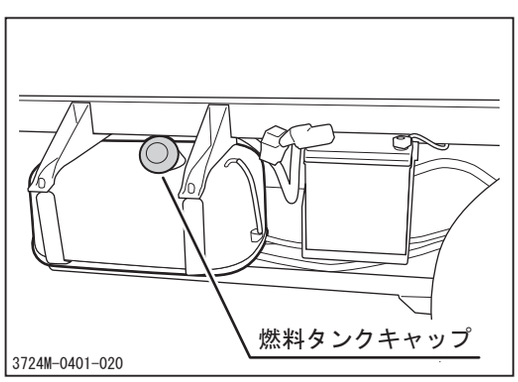
燃料の点検と補給

⚠ 警　告

- 燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油は油面上限（給油口内フィルタ底面）以下になるようにし、給油口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。



1. 燃料計を確認し、燃料が不足している場合は、燃料を補給します。



2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。
3. 燃料タンクキャップを確実に閉めます。

アドバイス

- 使用燃料：ガソリン
- 燃料タンク容量：16.0ℓ

シートの操作

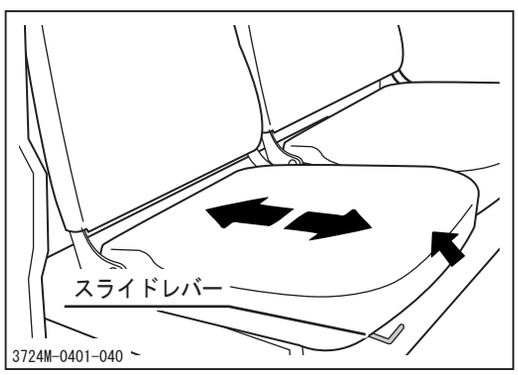
⚠ 注 意

・走行中はシートのスライドおよび前倒し操作をしないでください。シートが突然動き、事故につながるおそれがあります。

・シートのスライドおよび前倒し操作時に手や指をはさまないように十分注意してください。

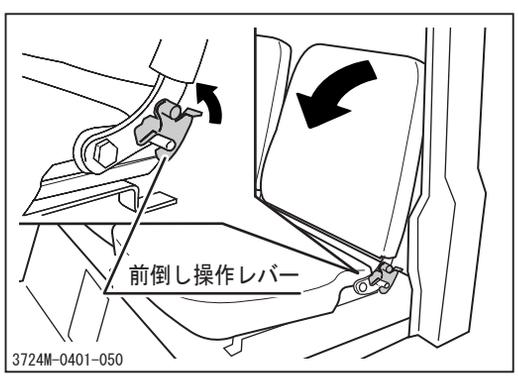
・シートのスライドおよび前倒し操作後は、シートを前後に動かし、確実に固定されていることを確認してください。

・背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため、事故につながるおそれがあります。



シートスライドのしかた

1. スライドレバーを引いたままシートをスライドしてから、任意の位置でレバーから手をはなし、シートを固定します。



シート前倒し機構

1. 操作レバーを矢印の方向へ動かしながら、背もたれを前に倒します。

シートベルトの着用

⚠ 注 意

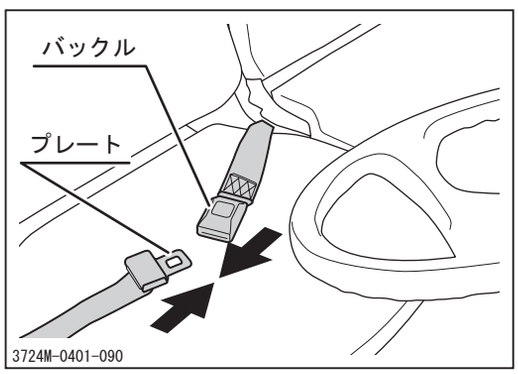
・走行中は必ずシートベルトを着用してください。

・シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて使用してください。

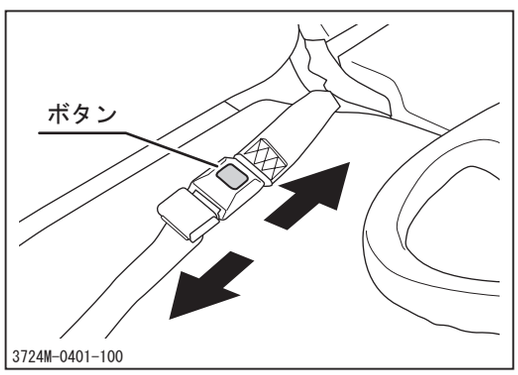
・シートベルトがねじれたままで着用しないでください。

・ほつれ、すりきれができたシートベルトはすぐに交換してください。

・シートベルトの装着後、確実に固定されていることを確認してください。



1. シートベルトのプレートをバックルに差し込みます。
2. ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着するように長さを調節します。



3. 外すときはバックルのボタンを押します。

運転のしかた

始動のしかた

⚠ 警 告

・エンジンの始動は必ず換気のよい場所で行ってください。

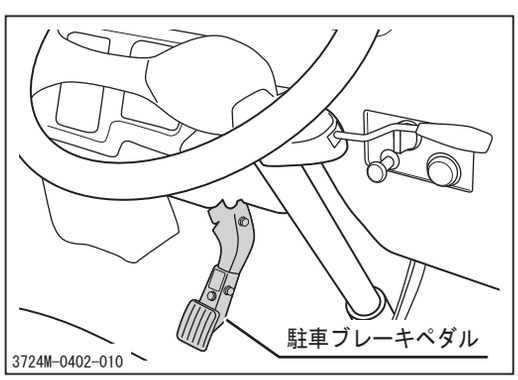
・始動は必ず乗車して行ってください。

⚠ 注 意

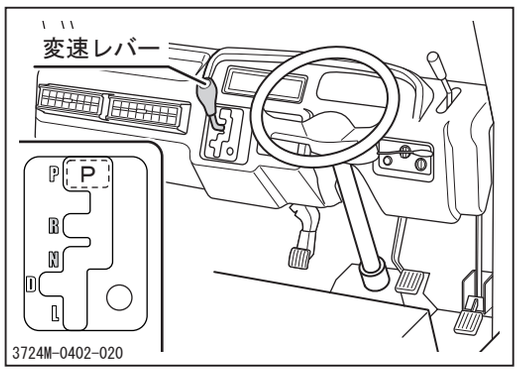
・エンジン回転中は、メインスイッチを「始動」の位置に回さないでください。スータモータおよびエンジン破損の原因となります。

・15秒以上スータモータを回さないでください。始動しない場合はメインスイッチを「切」の位置に戻し、30秒以上休んでから再始動してください。

・冬期または寒冷地では十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分に暖まらないうちに運転すると、エンジンの寿命を短くすることになります。



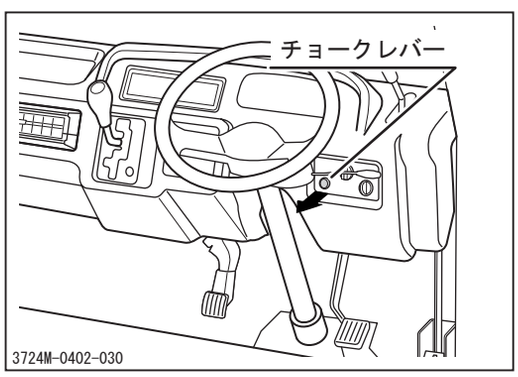
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。



2. 変速レバーが「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」の位置にあることを確認します。

アドバイス

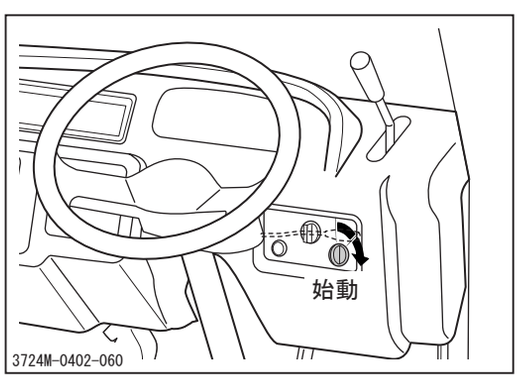
・本機は始動安全装置を装備しているため、変速レバーを「P（パーキング）」または「N（ニュートラル）」の位置にしないと、エンジンは始動しません。



3. チョークレバーを引き、「 |\| （全閉）」の位置にします。

アドバイス

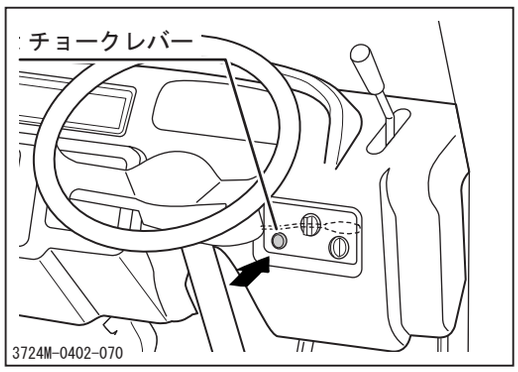
・エンジンが暖まっている場合はこの操作は必要ありません。



4. エンジンキーを差し込み、メインスイッチを「始動」の位置まで回し、エンジンを始動させます。
5. エンジンが始動したら、直ちにエンジンキーから手を離します。

アドバイス

・頻繁な再始動はなるべく避け、エンジンが始動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。
・購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



暖かい季節（外気温 5℃以上）の場合

6. チョークレバーを「|||（全開）」の位置に戻し、3～5分間暖気運転をします。

寒い季節（外気温 5℃以下）の場合

6. エンジンが始動したら、エンジンが止まらない程度の位置にチョークレバーを戻した状態で5～10分ほど暖機運転をします。
7. その後チョークレバーを「|||（全開）」の位置に戻します。

アドバイス

・チョークレバーを「|||（全開）」の位置に戻してエンジンが止まる、またはエンジン回転が安定しない場合は、チョークレバーを少し引っ張った状態で長めに暖機運転を行ってください。

運転のしかた

⚠ 警　告

・運転時は本製品の周辺に人を近づけないでください。

・発進時は必ず周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進させてください。

・旋回時は必ず周囲の安全を確認してください。

・急発進、急加速、急旋回、急停止を行わないでください。車両がスリップや転倒をするおそれがあります。

・走行中にメインスイッチを「切」の位置にしないでください。

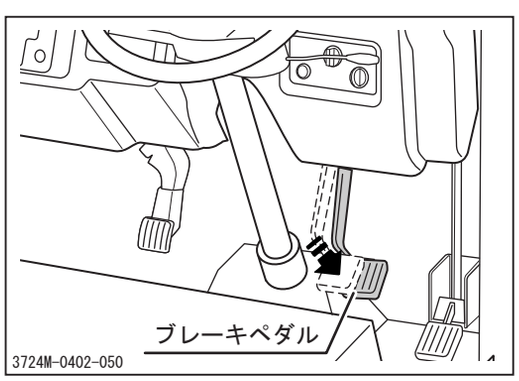
・前進走行中に変速レバーを「R（リバース）」の位置へ入れないでください。

・走行中に駐車ブレーキペダルを「入」の位置に入れないでください。

・高速走行での急旋回は転倒のおそれがあり、危険です。

アドバイス

・オートマチック車では、エンジンがかかっているときに変速レバーが「P（パーキング）」、「N（ニュートラル）」以外の位置では、車両がゆっくり動き出すクリープ現象と呼ばれる現象が起こります。停車中は平坦地でもブレーキをしっかり踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
・エンジン始動直後やクーラー作動時などは自動的にエンジンの回転があがり、クリープが強くなりますので、ブレーキペダルはしっかりと踏んでください。

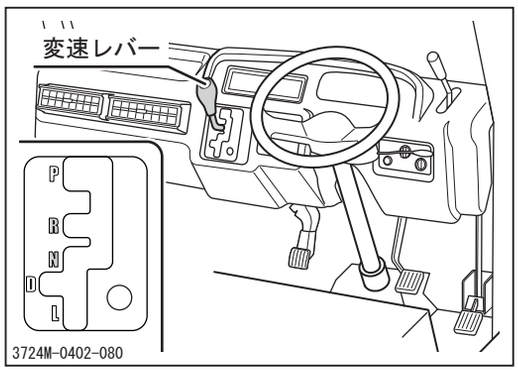


発進する場合

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. ブレーキペダルを踏みます。

アドバイス

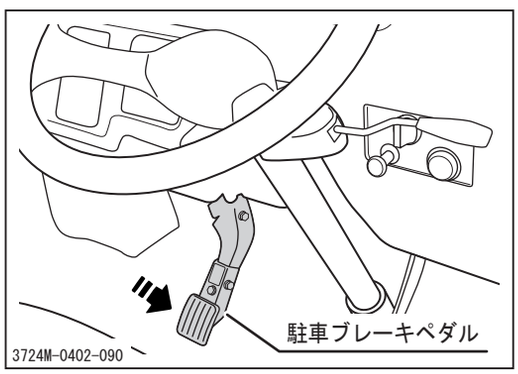
・ブレーキペダルを踏まないと変速レバーは「P（パーキング）」から動きません。



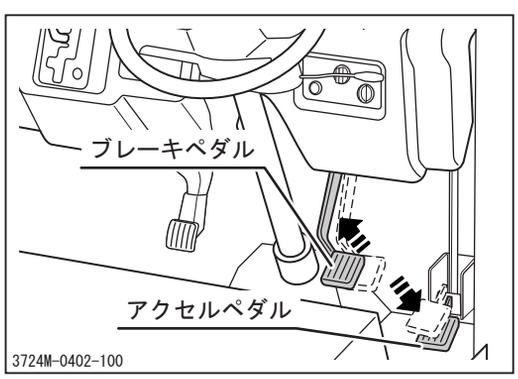
3. 変速レバーを任意の変速位置に確実に入れます。

アドバイス

・各変速位置での走行速度については、「本製品の仕様」（☞11ページ）を参照してください。



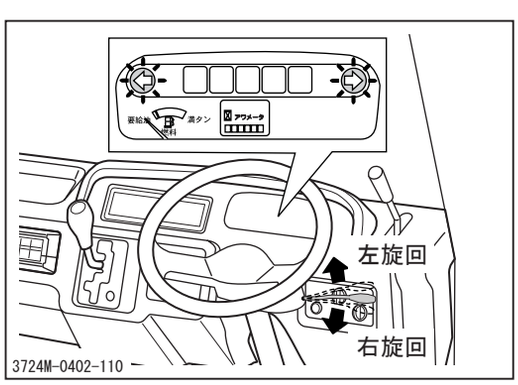
4. 駐車ブレーキペダルを踏み込んで駐車ブレーキを解除します。



5. ブレーキペダルから足を上げ、アクセルペダルを徐々に踏み込み、車両をゆっくり発進させます。

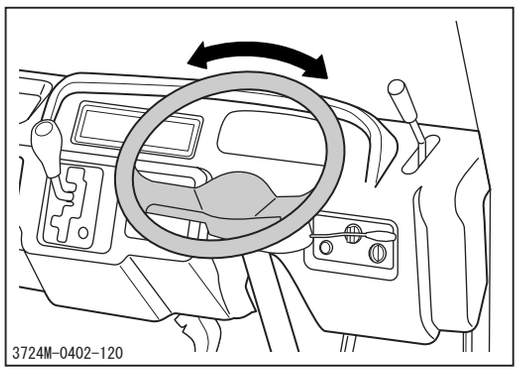
アドバイス

・アクセルペダルを踏み込みすぎると急発進する恐れがあります。

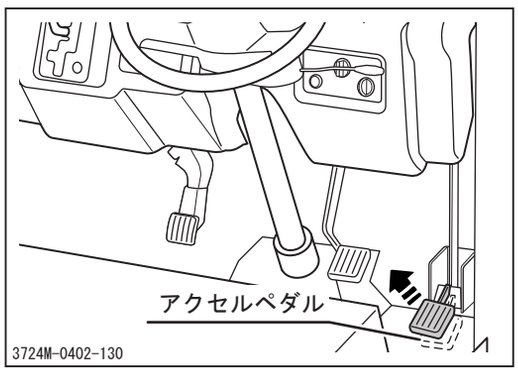


旋回する場合

6. 方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを旋回したい側（図示参照）に動かします。（旋回する側の方向指示ランプが点滅します。）

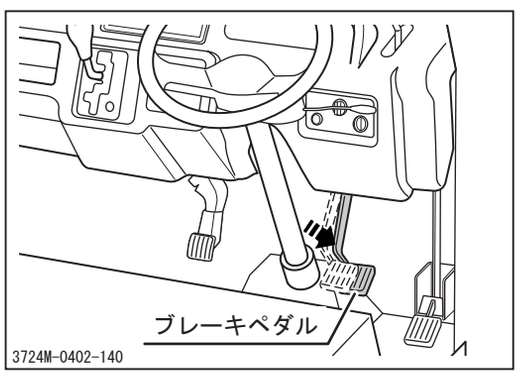


7. ハンドルを左側または右側に切り、旋回します。



停止する場合

8. アクセルペダルから足を離し、エンジンの回転数を落とし、車体を減速させます。



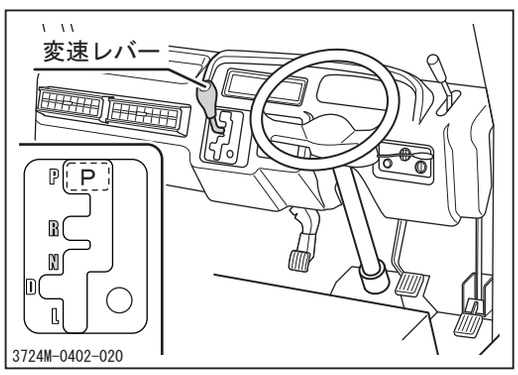
9. ブレーキペダルを踏み込み、車両を停止させます。

駐車のしかた

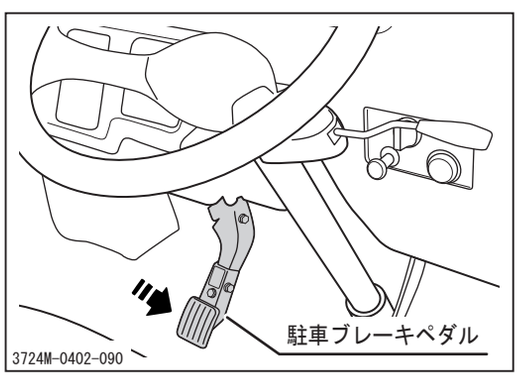
⚠ 警　告

・駐車の際は地盤の固い平坦地を選び、危険な場所には駐車しないでください。

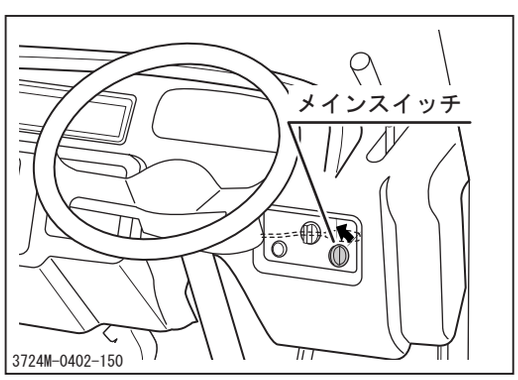
・傾斜地には駐車をしないでください。やむなく傾斜地に駐車する場合は、変速レバーを「Ｐ（パーキング）」に入れ、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。



1. 車体を確実に停止させます。
2. 車体が完全に停止したら、変速レバーを「Ｐ（パーキング）」の位置に入れます。



3. 駐車ブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを確実にかけます。



4. メインスイッチを「切（ＯＦＦ）」の位置に回し、エンジンを停止し、エンジンキーを抜き取ります。

作業のしかた

ダンプ操作

⚠ 警　告

・ダンプ操作時は必ず周囲の安全を確認してください。

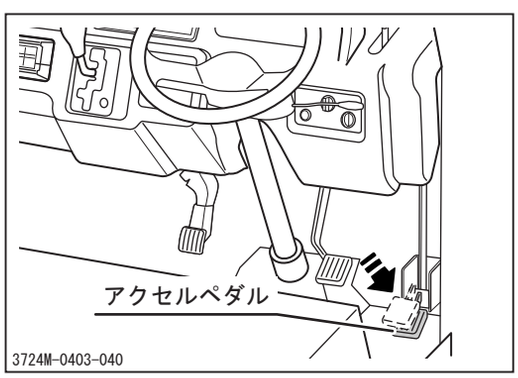
・ダンプ操作時は必ず車両を確実に停止させ、変速レバーを「P（パーキング）」の位置に入れ、駐車ブレーキを確実にかけてから行ってください。

・傾斜地でのダンプ操作は行わないでください。やむなく傾斜地でダンプ操作を行う場合は、車体が水平になるようにしてください。車両が転倒するおそれがあります。

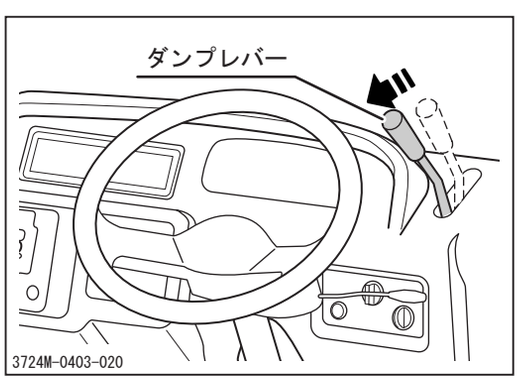
⚠ 注　意

・ダンプ操作は必ずエンジン回転時に行ってください。

・積載したまま荷台を下降させる場合は、エンジン回転数を下げ、ゆっくりと下降させてください。

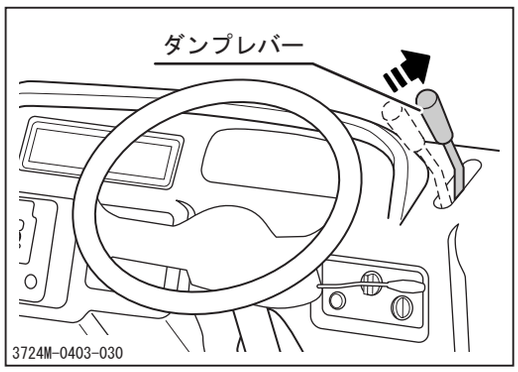


1. 車両を確実に停止させ、変速レバーを「P（パーキング）」の位置に入れ、駐車ブレーキを確実にかけます。
2. アクセルペダルを踏み込みエンジンの回転数を上げます。



荷台を上昇させる場合

3. ダンプレバーを「上昇」の方向に徐々に倒し、荷台を上昇させます。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを戻します。



荷台を下降させる場合

5. ダンプレバーを「下降」の方向に徐々に倒し、荷台を下降させます。
6. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音がしますので、ダンプレバーを戻します。

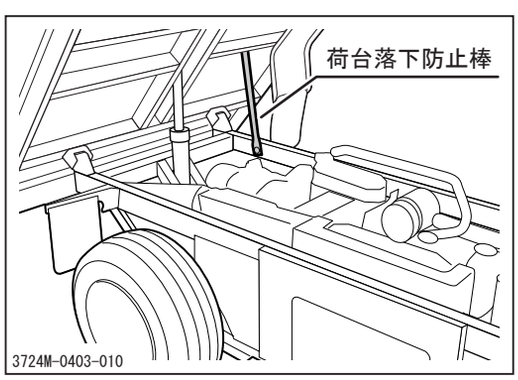
荷台落下防止棒の操作

⚠ 警 告

・点検等で荷台を上昇させた場合には、必ず荷台落下防止棒で荷台を確実に支えてください。

⚠ 注 意

・荷台を下降させる前に、必ず荷台落下防止棒を元に戻してください。



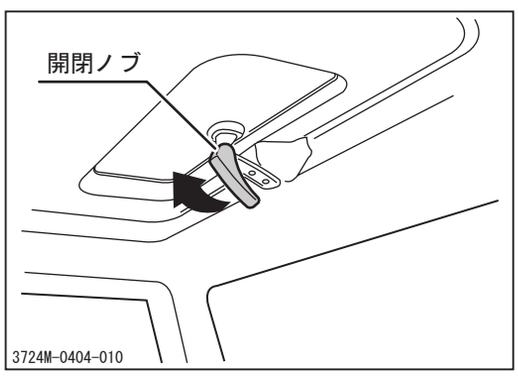
1. 荷台を上昇させます。
2. 荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えます。

快適装備

開閉ルーフの操作

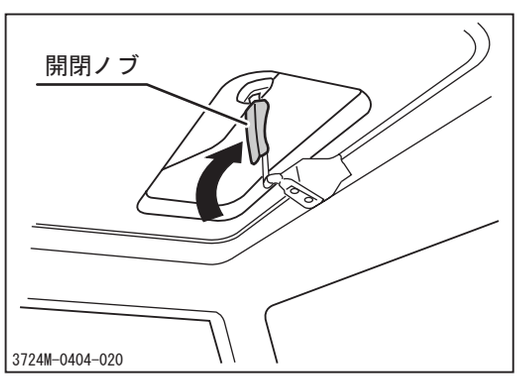
⚠ 注 意

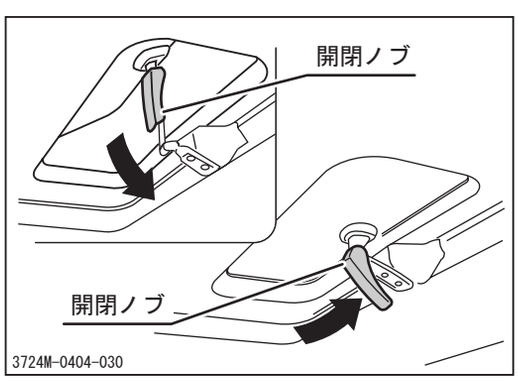
・開閉ルーフの操作時は必ず車両を停止させてから行ってください。



開きかた

1. 車体を確実に停止させ、変速レバーを「P（パーキング）」の位置に入れ、駐車ブレーキを確実にかけます。
2. 開閉のノブを手前に引き、押し上げて固定します。





閉じかた

1. 開閉ノブを引き下げ、左図のように固定します。

ヒーターの操作

⚠ 警　告

・空気の吸い込み口や吹き出し口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転しておりケガの原因になります。

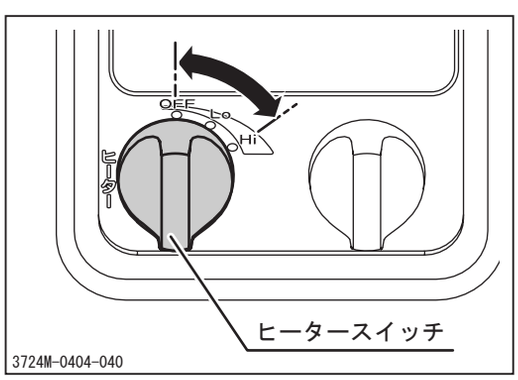
・掃除するときや整備・点検のときは、必ずキースイッチを「切（ＯＦＦ）」にしてください。ファンが回転してケガをします。

・ヒーターの吹き出しの温風を長時間にわたり、手や足に当てないでください。ヒーターの吹き出し口や表面及び温水ホースに触れないでください。火傷の原因になります。

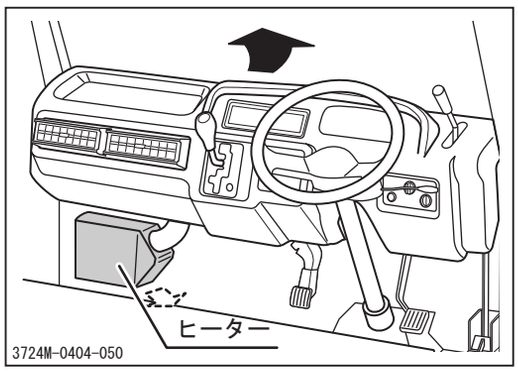
・ヒーターを長時間使用しないときは、ヒーターのルーバーを必ず閉じておいてください。ゴミ等が入り故障の原因となります。

☝アドバイス

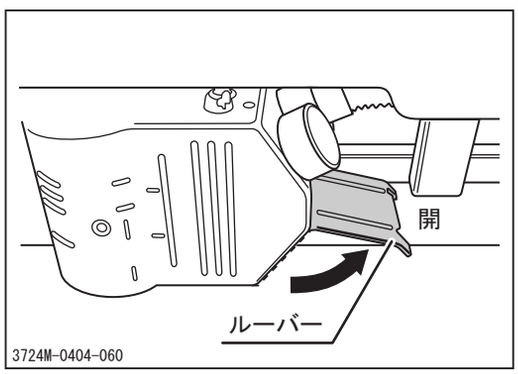
・エンジン始動直後などエンジンが冷えているときはヒーターの効きが悪い場合があります。
・ヒーター使用中はクーラーを止めてください。クーラーが作動していると車内が温まらなくなります。



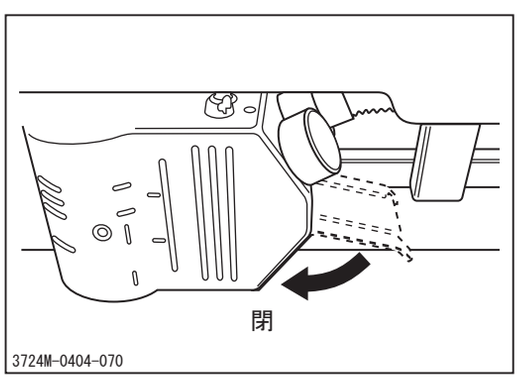
1. 室内暖房は必要なときにヒータースイッチを「Ｌｏ」または「Ｈｉ」の好みの位置に切替えて使用します。



2. ヒーターの吹き出し口はフロントウインドウ・足元の2ヶ所あります。



3. 足元の温風は、ヒーター吹き出し口のルーバーを開閉することで好みに応じて入切できます。



クーラーの操作

⚠ 警　告

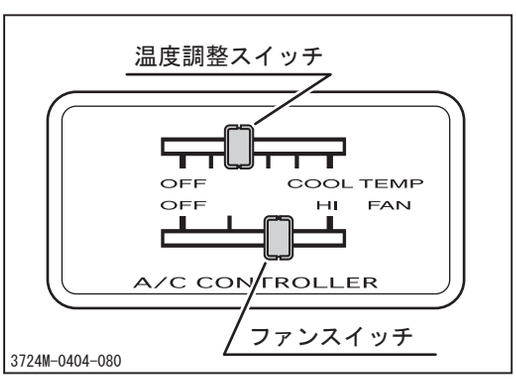
・空気の吸い込み口や吹き出し口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転しておりケガの原因になります。

・掃除するときや整備・点検のときは、必ずキースイッチを「切（ＯＦＦ）」にしてください。ファンが回転してケガをします。

・クーラーを長時間使用しないときは、クーラーのルーバーを必ず閉じておいてください。ゴミ等が入り故障の原因となります。

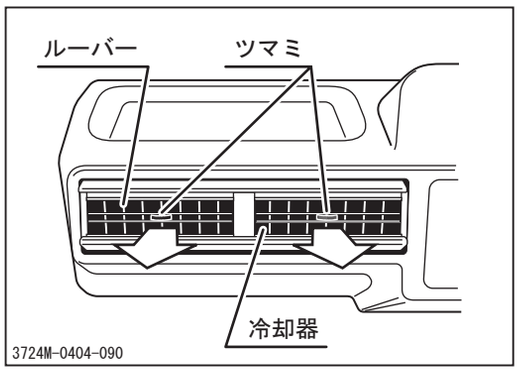
アドバイス

・クーラー使用中はヒーターを止めてください。ヒーターが作動していると車内が冷えなくなります。



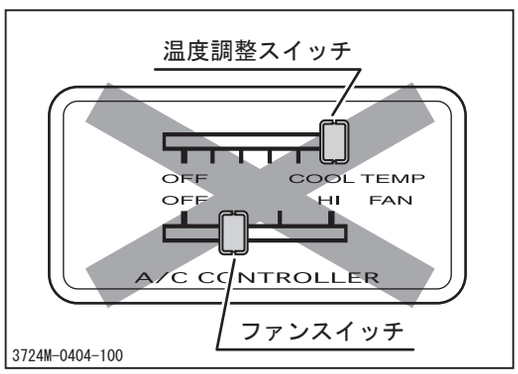
クーラースイッチの操作

1. ファンスイッチでクーラーの作動・停止と風量調整を行います。風量は「弱」・「中」・「強（ＨＩ）」の３段階に切り替えることができます。クーラーを止めるときは「ＯＦＦ」にします。
2. 温度調整スイッチで冷風の温度を調整します。「ＯＦＦ」の位置から「ＣＯＯＬ」側にするほどよく冷えます。「ＯＦＦ」の位置にするとクーラーは止まり、このときクーラースイッチが「ＯＦＦ」以外になっていれば風のみ出ます。



クーラー吹き出し口の調整

1. 左右の吹き出し口からの風向きは、それぞれのツマミを動かして調整します。



アドバイス

・湿気の多いときに左図のようなスイッチの組み合わせにすると、冷却器に霜が付いて冷風の吹き出しが弱くなります。

・このような時は温度調整スイッチを「中」にしてご使用ください。もし、冷却器に霜が付いた場合は温度調整スイッチを「ＯＦＦ」（風は出た状態）にすると霜がとれやすくなります。

定期点検表

⚠ 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。

・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項目			点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	本体	始動性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
		回転の状態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと		○	○	販売店に点検を依頼してください
			エンジンを加速した時にアクセルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
		排気の状態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
			排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	
		エアクリーナ	ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みがないこと		○	○	
			エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと		○	○	清掃/交換：☞43ページ
		締め付け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締め付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと ※これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい			○	
		弁隙間	弁隙間が正規であること ※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください

項目			点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
原動機	本体	圧縮圧力	圧縮圧力が正規であること ※アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと	○	○	○	
			取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
			防振ゴムに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
	潤滑装置		油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞38ページ
			ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
	燃料装置		燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
			燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
			フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	点検/交換：☞46ページ
	冷却装置		冷却水の量が適正で、著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検/補給：☞41ページ
			ラジエータ、エンジン本体、ウォータポンプ、ホース等からの水漏れまたはラジエータのフィンの目詰まりがないこと。	○	○	○	
			ホースの損傷および劣化がないこと。	○	○	○	
			ラジエータキャップのバルブ機能が正常に機能すること。			○	
			ラジエータキャップのバルブシート面に損傷がないこと。			○	
			冷却ファン、カバー、ダクト等に亀裂、損傷および変形がないこと。			○	
			冷却ファン、カバー等の各取り付けボルトおよびナットに緩みがないこと。			○	
	ファンベルト		亀裂、損傷がなく、油脂類の付着がないこと		○	○	点検：☞45ページ
			ベルトの張りが適正であること		○	○	点検/調整：☞45ページ
	電気装置	点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと			○	清掃/交換：☞44ページ
		バッテリ	電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	点検/補給：☞57ページ
			端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
		配線	接続部に緩みがないこと		○	○	
			配線に損傷がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
走行装置	トランスファー	走行時に異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正であること		○	○	点検：☞48ページ
		油に著しい汚れがないこと		○	○	点検：☞48ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	オートマチックトランスミッション	ケース内の油量が適正であること		○	○	点検：☞49ページ
		油に著しい汚れがないこと		○	○	交換の必要がある場合は販売店にご相談ください
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	プロペラシャフト	クラッチをつないだ時に異音または異常振動がないこと		○	○	
		曲がりおよび損傷がないこと		○	○	
	タイヤ、ホイール	タイヤの空気圧および溝の深さが規定値内であること	○	○	○	点検：☞47ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏摩耗がないこと	○	○	○	
		タイヤの溝に金属片、石等の異物のかみ込みがないこと	○	○	○	
		ホイールボルトおよびハブナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	
	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	
		駐車ブレーキ作動時に1/5勾配で停止状態を保持できること	○	○	○	
		ブレーキペダルの遊びが適正であること		○	○	
		ブレーキオイルの油糧が適正であること	○	○	○	
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形、損傷または緩みがないこと	○	○	○	
		連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと	○	○	○	
油圧装置	パワーパッケージ（ダンプ&パワーステアリング用）	油圧パッケージ周辺からの油漏れがないこと		○	○	点検/補給：☞54ページ
		油圧パッケージ内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	点検/補給：☞54ページ
		ブリーザに目詰まりのないこと			○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	

項目		点検内容	点検時期 始業	月次	年次	備考
油圧装置	油圧パッケージ	負荷時に油圧ポンプの吐出量および吐出圧力がメーカー指定の基準値内であること			○	※上記項目の異常振動、異音および異常発熱がなければこの検査を省略してもよい
	パッケージ・コンプレッサベルト	亀裂、損傷がなく、油脂類の付着がないこと		○	○	点検：☞56ページ
		ベルトの張りが適正であること		○	○	点検/調整：☞56ページ
	配管（ホース類、高圧パイプ）	配管に亀裂、損傷、劣化またはねじれがないこと		○	○	
		配管継手部からの油漏れがないこと		○	○	
		配管の取付状態が適正で、ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	油圧シリンダ	円滑に作動すること		○	○	
		シリンダを伸縮作動させた時にシール部からの油漏れがないこと		○	○	
		シリンダに負荷をかけて静止させた時の伸縮量がメーカー指定の基準値内であること			○	
		シリンダチューブおよびロッドに打痕、亀裂、曲がりまたは擦り傷がないこと		○	○	
		シリンダ取付ピンに損傷または著しい摩耗がないこと		○	○	
車体・荷台	車枠および車体	亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷台	ドアの開閉またはロックに異常がないこと	○	○	○	
		亀裂、変形または腐食がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に曲がりまたは変形がないこと		○	○	
	マーク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
安全装置等	ヘッドランプ・テールランプ	正常に点灯すること	○	○	○	
		レンズに破損または水などの浸入がないこと		○	○	
	ストップランプ	ブレーキペダルを操作した時に正常に点灯すること	○	○		
		レンズに破損または水などの浸入がないこと		○	○	
	方向指示灯	方向指示灯およびパイロットランプが正常に点滅すること	○	○	○	
		レンズに破損または水などの浸入がないこと		○	○	
	ホーン	正常に鳴ること	○	○	○	
	バックミラー	汚れ、破損、脱落がないこと		○	○	

給油・給水一覧表

項　　目	補給（交換）時期	推　　奨　　品	容　量	参　照
燃　　料	随時	ガソリン	16.0ℓ	☞15ページ
エンジンオイル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：50時間 2回目以降：100時間毎	エンジンオイル （API分類　SE,SF,SG SAE分類　10W-30） ※ -10℃まで -10℃以下の場合　5W-30	3.0ℓ （オイルフィルタ交換時は3.3ℓ）	☞38ページ
トランスファーオイル	初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル SAE分類　#80	0.5ℓ	☞48ページ
トランスミッションオイル	補給 毎月点検し、不足時に補給	ATF D3 マルチ	3.8ℓ	☞49ページ
ディファレンシャル（デフ）オイル	初回：50時間 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル （API分類　GL4または5 SAE分類　#80）	1.0ℓ	☞50ページ
パワーパッケージオイル（パワーステアリング＆油圧ダンプ用）	100時間毎に点検し、不足時に補給	タービン油 （ISO:VG32 JIS:#90）	1.7ℓ	☞54ページ
エンジン冷却水	補給 毎日点検し不足時に補給	不凍液混合水	-	☞41ページ
ブレーキフルード	毎日点検し不足時に補給	DOT 3（JIS K2233 BF-3）	-	☞51ページ
バッテリ液	毎月点検し不足時に補給	蒸留水	-	☞57ページ

給脂一覧表

給脂箇所	補　給　時　期	推　　奨　　品	容　量	参　照
中間パイプ部	半年毎 購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	-	☞53ページ
ローリングパイプ中央部	半年毎 購入後半年は給脂不要	シャーシグリース	-	☞53ページ

消耗部品（交換部品）一覧表

項　　目	部品番号	交換インターバル	個　数	参　照
エンジン				
エアクリーナAssy	37240051000	50時間毎に点検し、必要に応じて清掃または交換	1	☞43ページ
フューエルフィルタ	37240021000	200時間毎に点検し、必要に応じて交換	1	☞46ページ
ファンベルト	37240052000	不具合があれば交換	1	
走行装置				
ブレーキライニング	37188402100	不具合があれば交換	4	
タイヤAssy（右）	37242201000	不具合があれば交換	2	
タイヤAssy（左）	37242206000		2	
油圧系統				
Vベルト（SA40）	08511300040	不具合があれば交換	1	
電装品				
バッテリ（40B19R）	37053901000	不具合があれば交換	1	
ヒューズ（5A）	09801000504	不具合があれば交換	1	☞60ページ
ヒューズ（10A）	09801001004		10	
ヒューズ（15A）	09801001504		6	
ヒューズ（30A）	09801003003		1	
ヒューズ（40A）	09801004003		2	
ヘッドライトバルブ（H4 12V35/35W）	37180414000	不具合があれば交換	2	☞59ページ
テールランプバルブ（12V23/8W）	37140434000		2	
ウインカーバルブ（12V23W）	09808122304		4	
バックアップランプバルブ（12V15W）	09808121502		1	

アドバイス

・ホースなどのゴム製品は使わなくても劣化する消耗品です。2年毎、または傷んだときには、新品と交換してください。

エンジン

⚠ 警 告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はエンジン各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、エンジンが冷えてから作業を行ってください。

エンジンオイルの点検・補給・交換

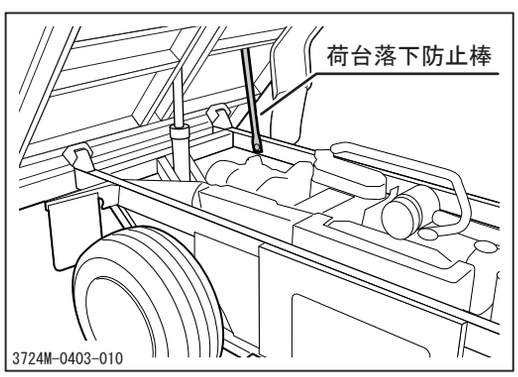
⚠ 警 告

・エンジン停止直後はオイルが高温になっており、やけどのおそれがありますので、オイルが冷えてから作業を行ってください。

・廃油は適切な処理をしてください。

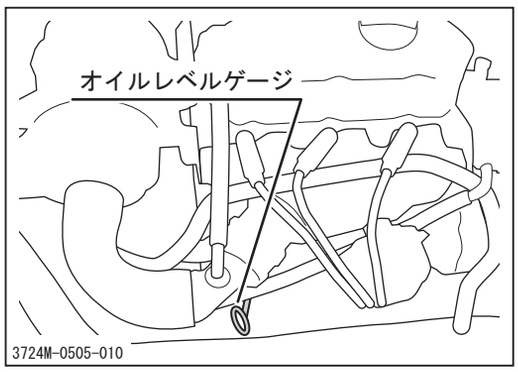
⚠ 注 意

・オイルの補給がおろそかになると、エンジン故障の原因となりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。



点検

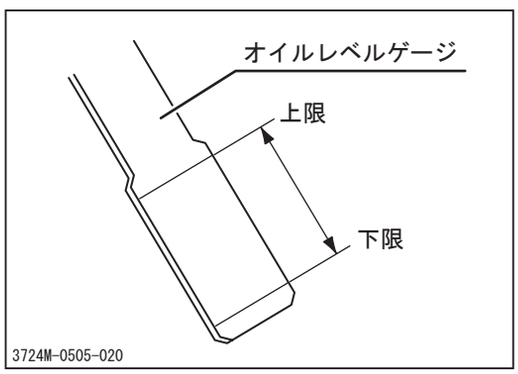
1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。 (☞26ページ)



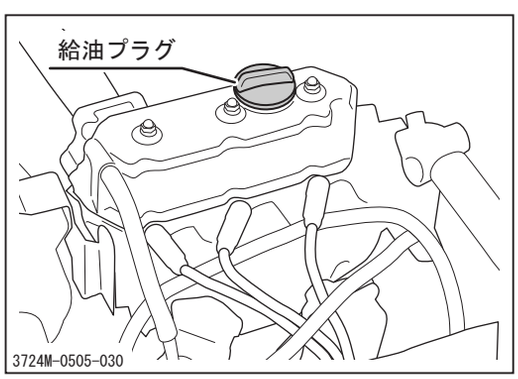
3.　オイルレベルゲージを取り外します。

アドバイス

・オイル量はエンジン始動前かエンジン停止後約10分たってから行ってください。エンジン停止直後はエンジン各部にオイルが残留しており、正確なオイル量が点検できません。



4.　オイル量を目視点検し、レベルゲージの「下限」より少ない場合は補給します。
5.　オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。

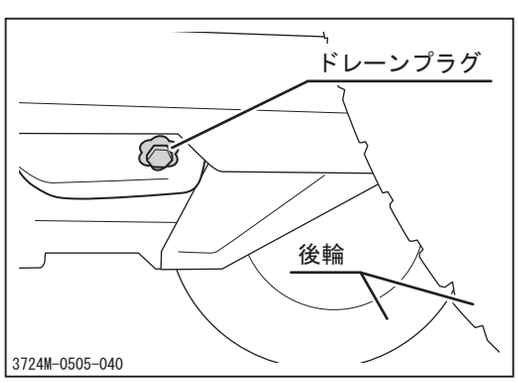


補給

1.　給油プラグを取り外します。
2.　給油口より指定のオイルを補給します。
3.　オイル量を点検し、レベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。
4.　給油プラグを取り付けます。

アドバイス

・指定オイル：☞36ページ



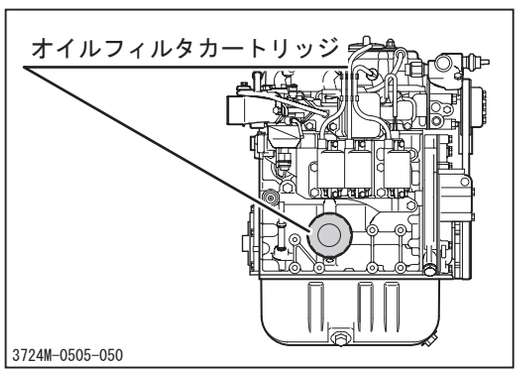
交換

1.　オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2.　ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3.　ドレーンプラグを取り付けます。
4.　オイルを補給します。

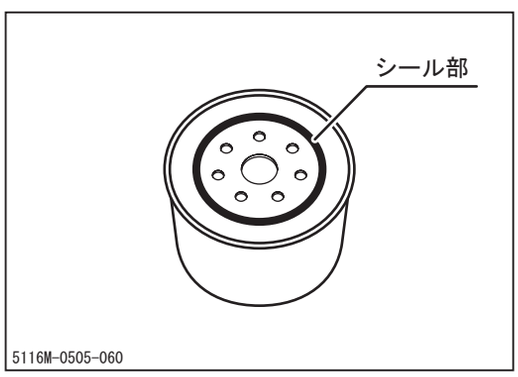
アドバイス

・指定オイル：☞36ページ
・オイル量：☞36ページ

オイルフィルタカートリッジの交換



1. オイルを排出します。 (☞39ページ)
2. オイルフィルタレンチを使用してオイルフィルタカートリッジを取り外します。
3. エンジン側のフィルタハウジングベースを清掃します。



4. 新品のオイルフィルタカートリッジのシール部にきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。
5. オイルフィルタカートリッジを取り付け、手でいっぱいに締め付けます。
6. エンジンオイルを補給します。 (☞39ページ)
7. エンジン始動後、取付部からオイルの漏れがないか確認します。

エンジン冷却水の点検・補給・交換

⚠ 警　告

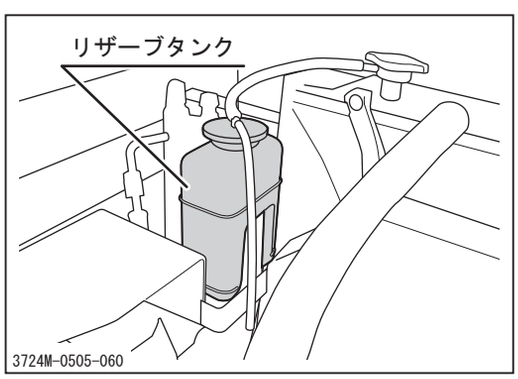
・エンジン停止直後にラジエータキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどをするおそれがありますので、冷却水が冷えてから開けてください。

・不凍液は引火性があるので、火気を近づけないでください

・使用済みの冷却水は適切な処理をしてください。

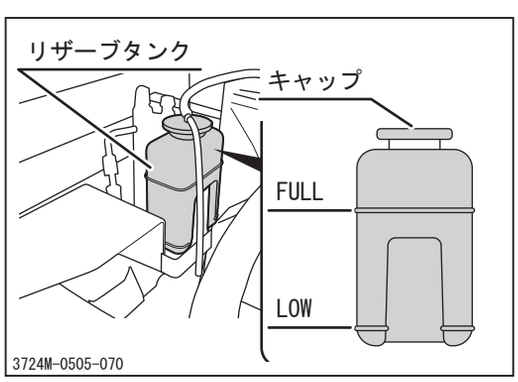
⚠ 注　意

・冷却水が不足すると、オーバーヒートの原因となりますので、指定の冷却水を過不足なく補給してください。



点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。（☞26ページ）
3. リザーブタンクを目視点検し、冷却水量が「ＬＯＷ」と「ＦＵＬＬ」の間にあることを確認します。
4. 冷却水量が「ＬＯＷ」より少ない場合は補給します。

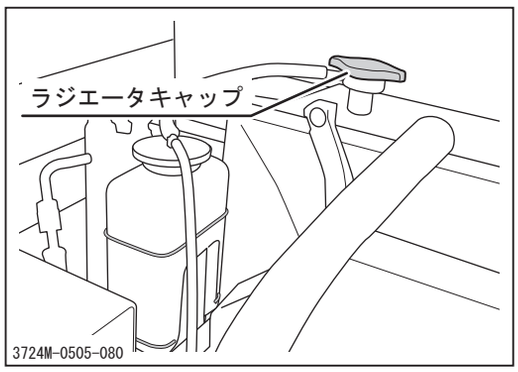


補給

1. キャップを取り外し、指定の冷却水を「ＦＵＬＬ」まで補給します。
2. キャップを取り付けます。

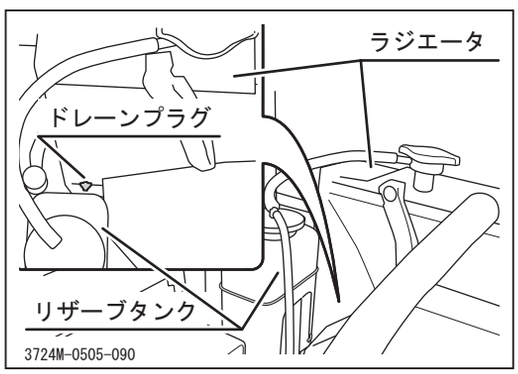
アドバイス

・指定冷却水：☞36ページ

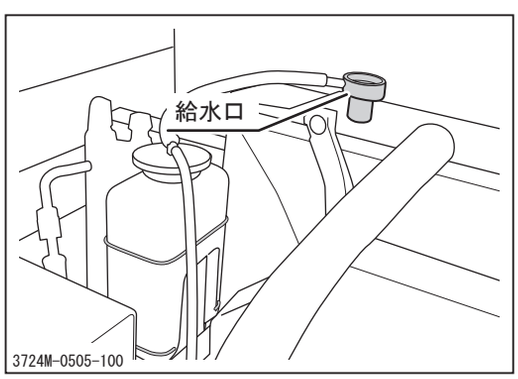


交換

1. 冷却水を抜き取る適当な容器を用意します。
2. ラジエータキャップを取り外します。



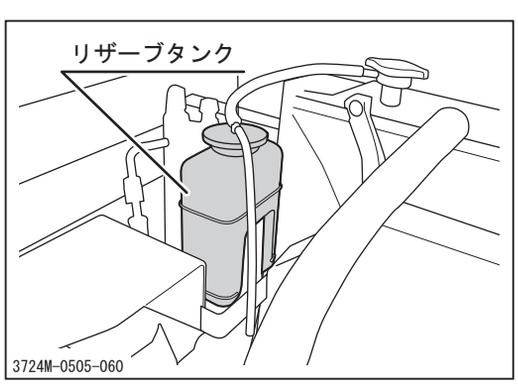
3. ドレーンプラグを取り外し、冷却水を排出します。
4. ラジエータ内を洗浄します。
5. ドレーンプラグを取り付けます。



6. 給水口より指定の冷却水を給水口いっぱいまで補給します。

アドバイス

- **指定冷却水**：☞36ページ
- **冷却水量**：☞36ページ



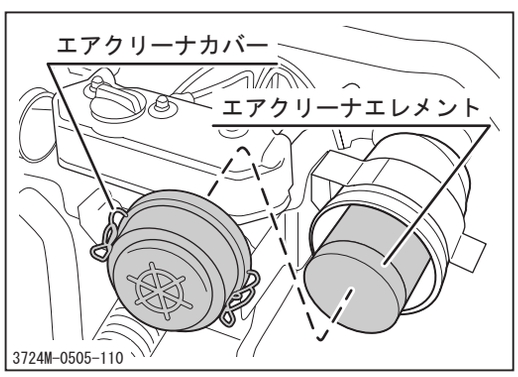
7. リザーブタンク内の冷却水を交換します。
8. エンジンを5分間運転し、エア抜きを行います。
9. 給水口より冷却水を給水口付近まで補給します。
10. ラジエータキャップを取り付けます。

エアクリーナの清掃・交換

⚠ 注　意

・エレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、寿命低下を引き起こすため、定期的に清掃するように心がけてください。

・エレメントに穴が開いている場合は、すぐに新品と交換してください。



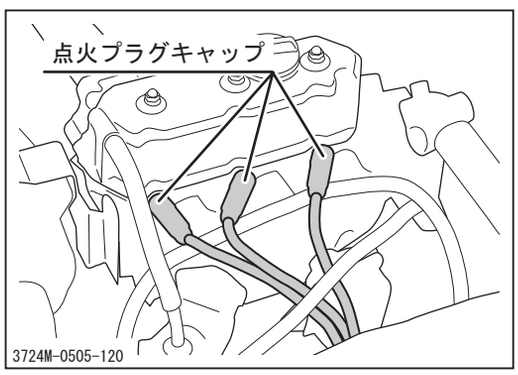
1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。（☞26ページ）
2. エアクリーナカバーを取り外します。
3. エアクリーナエレメントを取り外します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。

点火プラグの点検・清掃・交換

⚠ 注 意

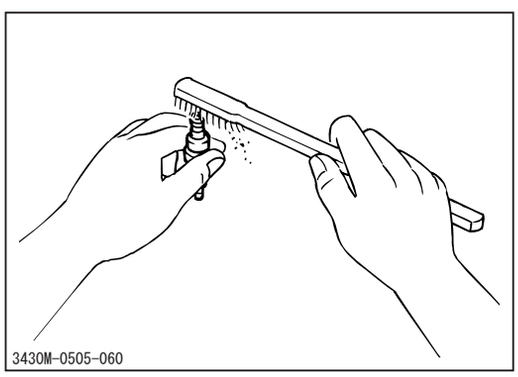
・点火プラグキャップを取り外すときはキャップを持って取り外してください。コードを引っ張ると断線するおそれがあります。

・点火プラグに破損がある場合は、すぐに新品と交換してください。



点検

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。（☞26ページ）
2. 点火プラグキャップを取り外します。
3. プラグレンチを使用して点火プラグを取り外します。



清掃

1. 焼け具合、電極の消耗、カーボンの付着を点検し、不具合があれば清掃または交換します。
2. 点火プラグを取り付けます。
3. 点火プラグキャップを取り付けます。

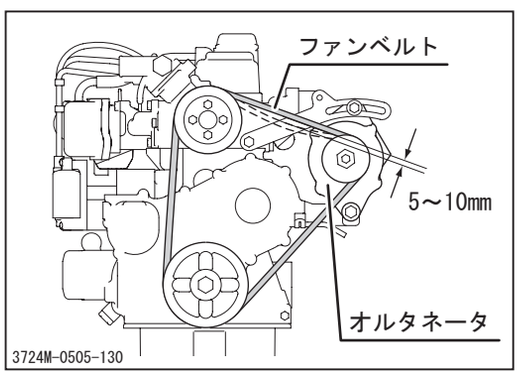
アドバイス

・指定プラグ：☞11ページ

ファンベルトの点検・調整

⚠ 注　意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。

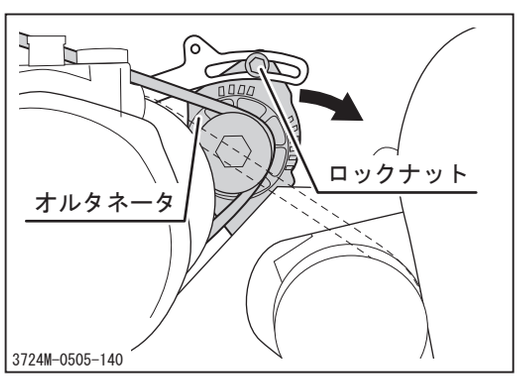


点検

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。（☞26ページ）
2. ファンベルトを指で押し、ベルトの張りを点検します。

アドバイス

・たわみ量：5～10mm



調整

1. たわみ量が基準値内でない場合は、ロックナットを緩めた後、オルタネータを矢印の方向へ引っ張り、ベルトの張りが適当になったところでロックナットを締めて調整します。

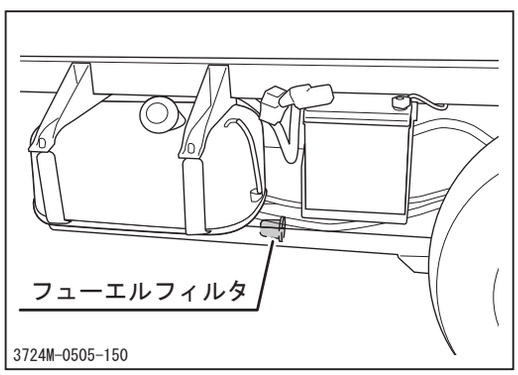
フューエルフィルタの点検・交換

⚠ 警 告

・燃料の取扱時は、火気を燃料に近づけないでください。

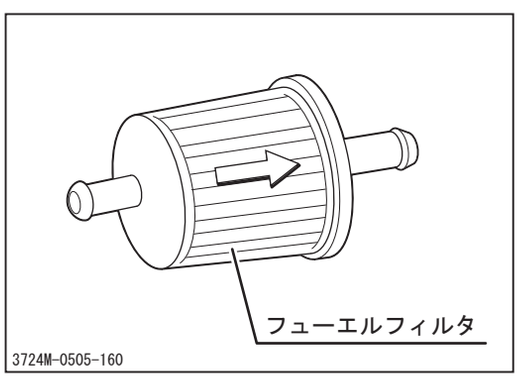
・燃料がこぼれないよう十分注意してください。燃料がこぼれた場合にはすみやかに拭き取ってください。

・廃油は適切な処理をしてください。



点検

1. フューエルフィルタを目視点検します。
2. フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがある場合は交換します。



交換

1. 燃料タンクから燃料を抜きます。
2. 燃料ホースのクランプを緩めます。
3. フューエルフィルタを交換します。
4. クランプを締めます。フューエルフィルタが確実に固定され、燃料漏れがないことを確認します。

アドバイス

・フューエルフィルタには方向があります。矢印の方向が燃料タンクと反対方向を向くようにフューエルフィルタを装着してください。

走行装置

⚠ 警　告

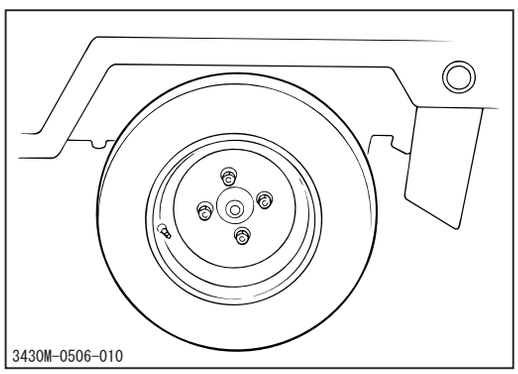
・作業時は必ずエンジンを停止してください。

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

タイヤ空気圧の点検・調整

⚠ 注　意

・タイヤは必ず指定の空気圧で使用してください。異常摩耗や損傷のおそれがあります。



1. 前輪および後輪のタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

アドバイス

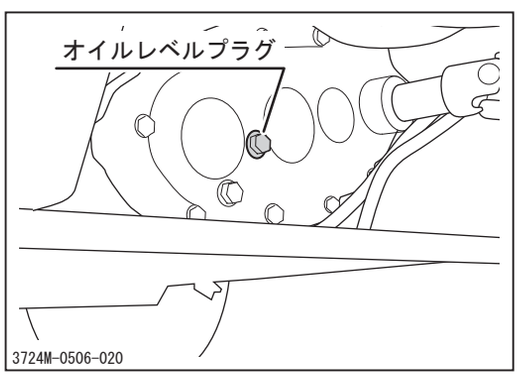
・空気圧：前輪2.2kg/cm^2、
後輪2.2kg/cm^2

トランスファーオイルの点検・補給・交換

⚠ 警 告

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、オイルが冷えてから作業を行ってください。

・廃油は適切な処理をしてください。

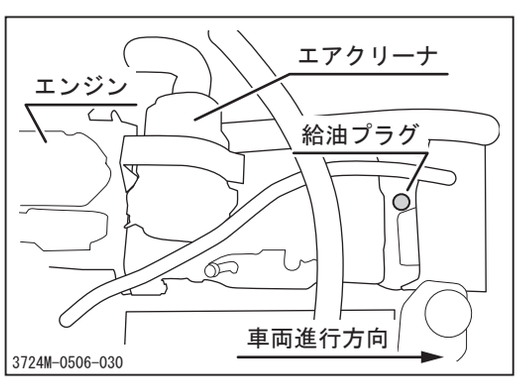


点検

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。 (☞26ページ)
3. オイルレベルプラグを取り外します。
4. オイルレベルプラグの位置までオイルが入っている事を確認し、オイルが不足している場合は、補給します。
5. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。

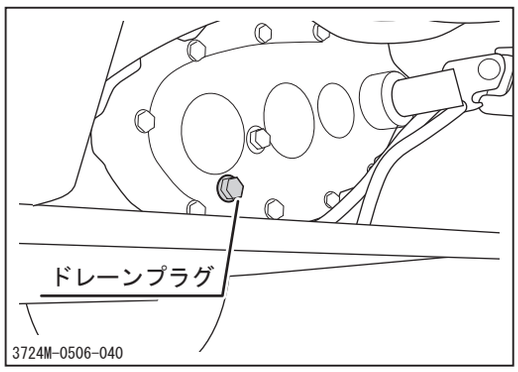
アドバイス

・指定オイル：☞36ページ



補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、オイルレベルプラグの位置までオイルが入っていることを確認します。
4. 給油プラグを取り付けます。



交換

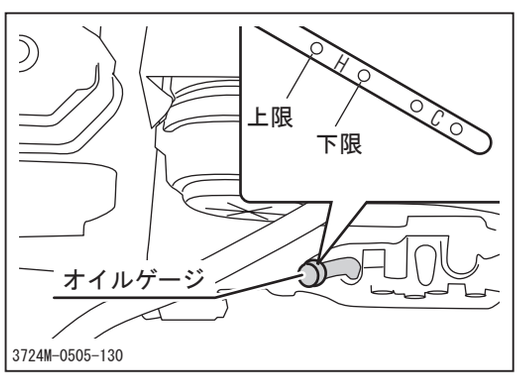
1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを抜き取ります。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

トランスミッションオイルの点検・補給

⚠ 警　告

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、オイルが冷えてから作業を行ってください。

・廃油は適切な処理をしてください。

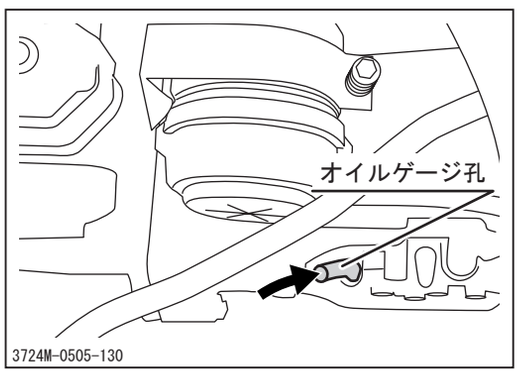


点検

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。 (☞26ページ)
3. オイルゲージを取り外します。
4. オイル量がオイルゲージの「上限」と「下限」の間にある事を確認し、オイルが不足している場合は、補給します。
5. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。

アドバイス

・指定オイル：☞36ページ



補給

1. オイルゲージを取り外します。
2. オイルゲージ孔から指定のオイルを補給します。
3. オイルゲージでオイル量を点検し、オイルの位置が上限と下限の間にあることを確認します。
4. オイルゲージを取り付けます。

アドバイス

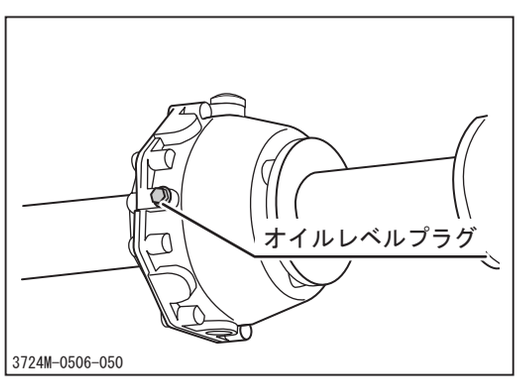
・オイル差しなどを利用するとオイル補給を楽に行えます。

ディファレンシャル（デフ）オイルの点検・補給・交換

⚠ 警 告

・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温に成っており、やけどのおそれがありますので、オイルが冷えてから作業を行ってください。

・廃油は適切な処理をしてください。

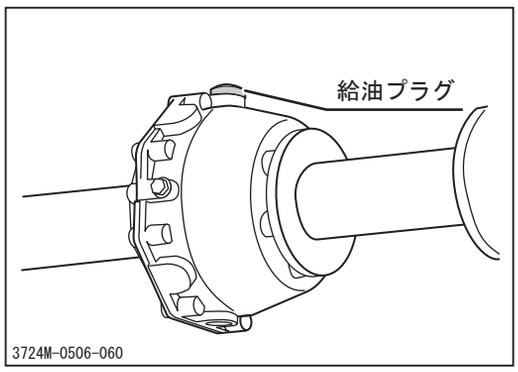


点検

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。 (☞26ページ)
3. オイルレベルプラグを取り外します。
4. オイルレベルプラグの位置までオイルが入っていることを確認し、オイルが不足している場合は、補給または交換します。
5. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。

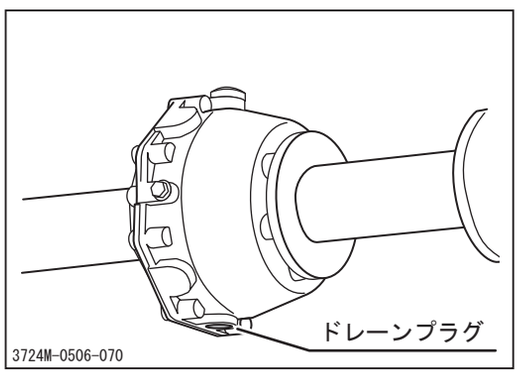
アドバイス

・指定オイル：☞36ページ



補給

1. 給油プラグを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、オイルレベルプラグの位置までオイルが入っていることを確認します。
4. 給油プラグを取り付けます。



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを抜き取ります。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

アドバイス

・給油プラグを取り外すと、オイルが抜き取りやすくなります。

ブレーキの点検

⚠ 警 告

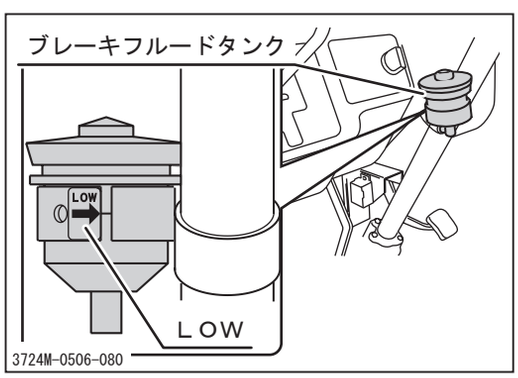
・最も重要な点検・整備箇所にブレーキがあります。日常より下記のような点検を行い、常に安全を心がけるようにしてください。片効きしたり、少しでも効きが甘くなったりするような場合は直ちに販売店で点検・整備を行ってください。

⚠ 注 意

・ブレーキフルードの油量が下限以下の場合は、油圧回路の異常が考えられますので、販売店で点検整備を行ってください。

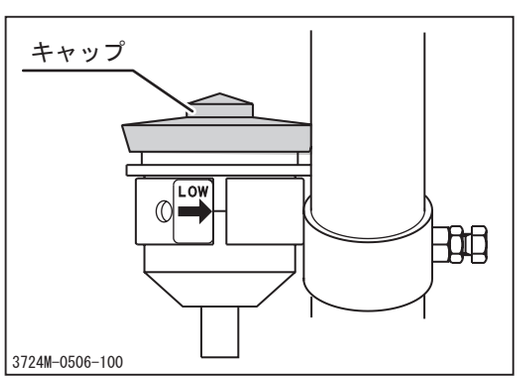
・ブレーキペダルの遊びが大きすぎる場合は、油圧回路の異常が考えられますので、販売店で点検整備を行ってください。

・駐車ブレーキペダルの踏みしろが多すぎる場合は、調整の必要がありますので、販売店で点検・整備を行ってください。



ブレーキフルードの点検

1. ブレーキフルードタンクの油量が「ＬＯＷ（下限）」以上入っていることを確認してください。

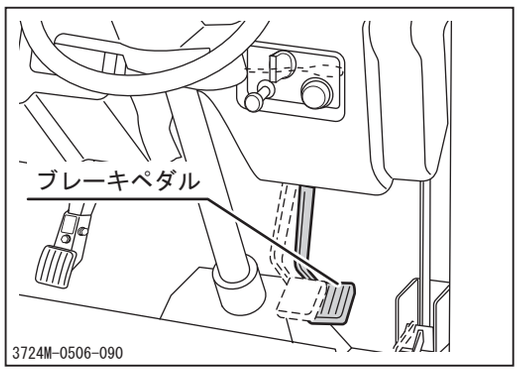


ブレーキフルードの補給

1. キャップを取り外し、指定のブレーキフルードを補給します。

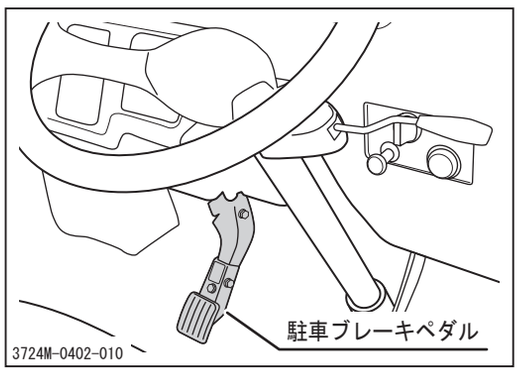
アドバイス

・指定ブレーキフルード：☞36ページ



ブレーキペダルの遊びの点検

1. ペダルを軽く押したとき遊びが先端で0～10㎜になる事を確認してください。



駐車ブレーキペダルの点検

1. 駐車ブレーキペダルを踏み込んで、駐車ブレーキペダルのロックがおよそ4ノッチで止まることを確認してください。

給脂

⚠ 注 意

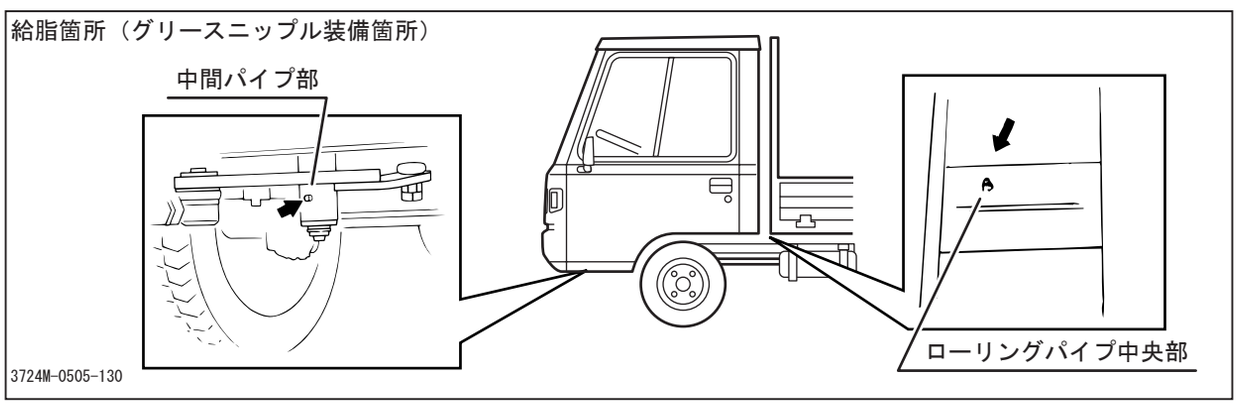
・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転が円滑に行われない恐れがありますので、常に指定のグリースを過不足なく給脂してください。

1. 市販の手動式グリースポンプまたはエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。

アドバイス

・使用グリース：☞36ページ

・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒で十分です。



油圧系統

⚠ 警 告

・作業時は必ずエンジンを停止してください。

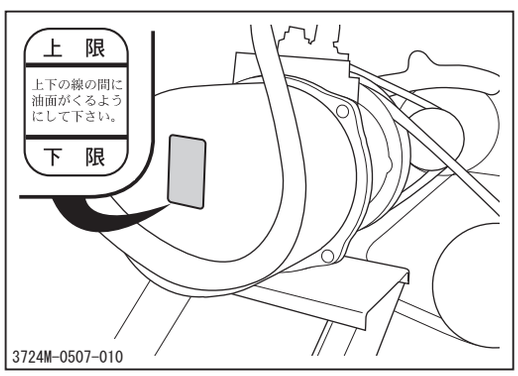
・エンジン停止直後はオイルおよび各部が高温になっており、やけどのおそれがありますので、各部が冷えてから作業を行ってください。

・廃油は適切な処理をしてください。

パワーパッケージオイルの点検・補給・交換

⚠ 注　意

・オイルが減ると油圧回路内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、指定のオイルを過不足なく補給してください。

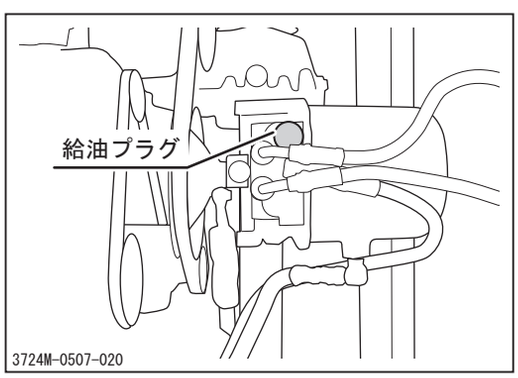


点検

1. 車両を水平な場所に停止させます。
2. オイル量を目視点検し、レベルゲージの「下限」より少ない場合はオイルを補給します。
3. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合は交換します。

アドバイス

・指定オイル：☞36ページ
・オイル量の点検は荷台を下げてから行ってください。荷台を上げた状態では正確なオイル量が点検できません。

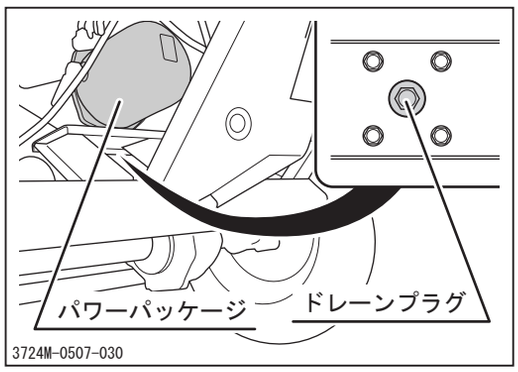


補給

1. 給油キャップを取り外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。
3. オイル量を点検し、レベルゲージの「上限」と「下限」の間にあることを確認します。
4. 給油キャップを取り付けます。

アドバイス

・指定オイル：☞36ページ



交換

1. オイルを抜き取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
3. ドレーンプラグを取り付けます。
4. オイルを補給します。

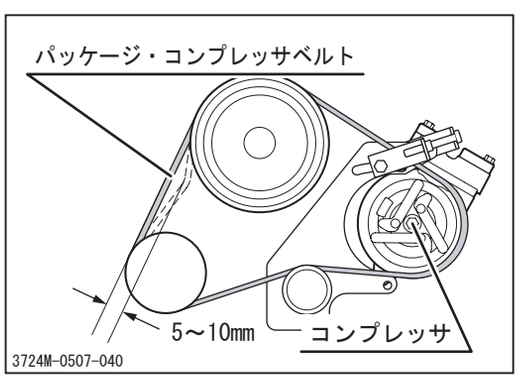
アドバイス

・指定オイル：☞36ページ
・オイル量：☞36ページ

パッケージ・コンプレッサベルトの点検・調整

⚠ 注 意

・ベルトの張りが弱いとベルトがスリップしベルトの寿命が短くなります。

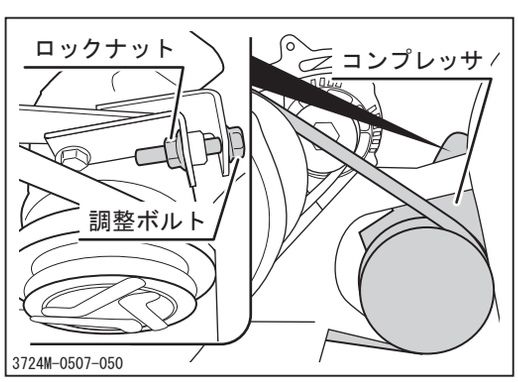


点検

1. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。（☞26ページ）
2. パッケージ・コンプレッサベルトを指で押し、ベルトの張りを点検します。

アドバイス

・たわみ量：5～10mm



調整

1. たわみ量が基準値内でない場合は、エアコンのコンプレッサのロックナットを緩めた後、コンプレッサを矢印の方へ引っ張り、ベルトの張りが適当になったところでロックナットを締めて調整します。

電装品

⚠ 警　告

・作業時は必ずエンジンを停止し、メインスイッチを「切」の位置にしてください。

バッテリ液の点検・補給・充電

⚠ 警　告

・バッテリから発生する水素ガスは引火性があるので、火気を近づけないでください。

・バッテリ液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

・バッテリ液量が「ＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以下になったままで使用しないでください。バッテリの寿命を著しく縮めます。また、バッテリが爆発するおそれがあります。

・バッテリは車両から取り外して充電してください。

・バッテリ液量が「ＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以下になったままで充電しないでください。バッテリが爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

・バッテリ液を補給する時は、バッテリ液量が「ＵＰＰＥＲ　ＬＥＶＥＬ」以上になるまで補給をしないでください。バッテリ液がもれて塗装面を傷つけたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。

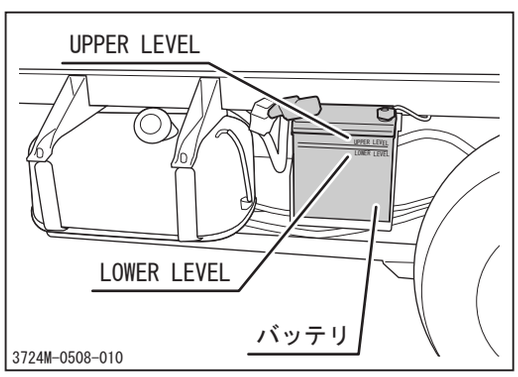
・バッテリを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

・バッテリ端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（－）端子が接続された状態で（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。

⚠ 注　意

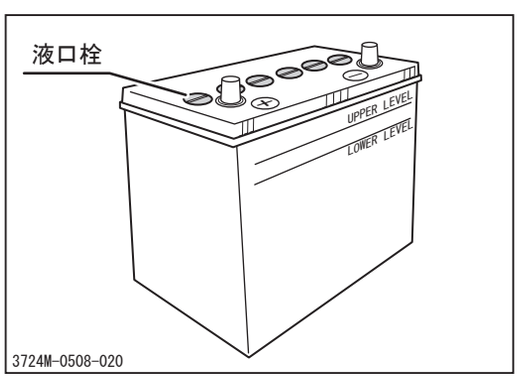
・バッテリ端子をバッテリに取り付けるときには（＋）と（－）を正しく取り付けてください。また、端子は確実に取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。

・急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておかないと、バッテリの寿命は極端に短くなります。



点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリ液量が「ＵＰＰＥＲ　ＬＥＶＥＬ（以下U.L.）」と「ＬＯＷＥＲ　ＬＥＶＥＬ（以下L.L.）」の間にあることを確認します。
3. バッテリ液量が「U.L.」と「L.L.」の中間より少ない場合は補給します。

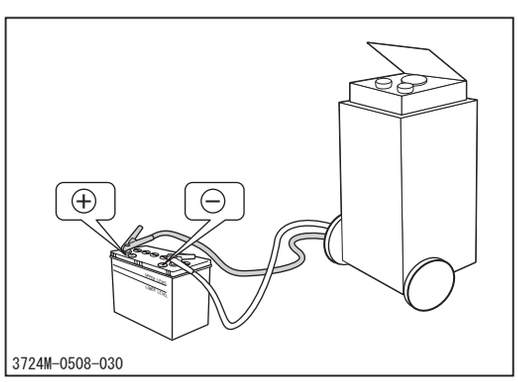


補給

1. 液口栓を取り外します。
2. 蒸留水を「U.L.」まで補給してください。
3. 液口栓を取り付けます。

アドバイス

・バッテリ液量：基準線（上および下）の間
・バッテリ液：蒸留水



充電

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリの（－）端子を取り外します。
3. バッテリの（＋）端子を取り外します。
4. バッテリを取り外します。
5. バッテリの（＋）と充電器の（＋）、バッテリの（－）と充電器の（－）を接続して充電します。
6. 充電が終了したらバッテリを車両に取り付けます。

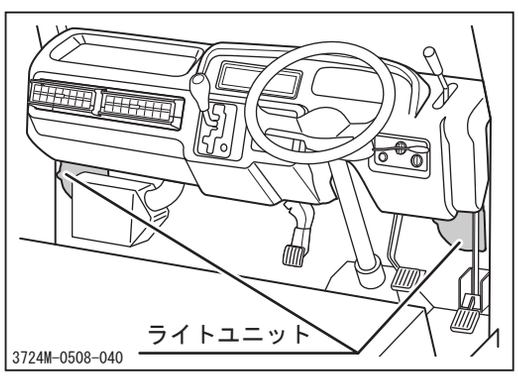
ライトバルブの交換

⚠ 注　意

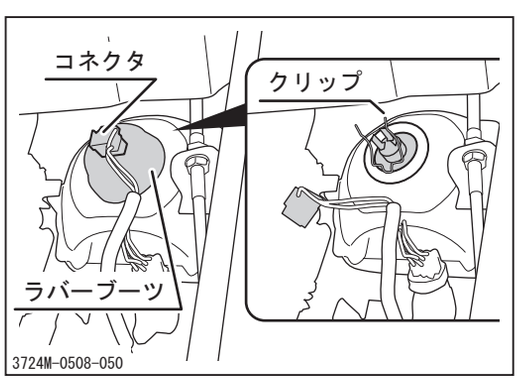
・ライトバルブが切れた場合はすぐに新品と交換してください

・ライトバルブは指定のものと交換してください。電装品が故障するおそれがあります。

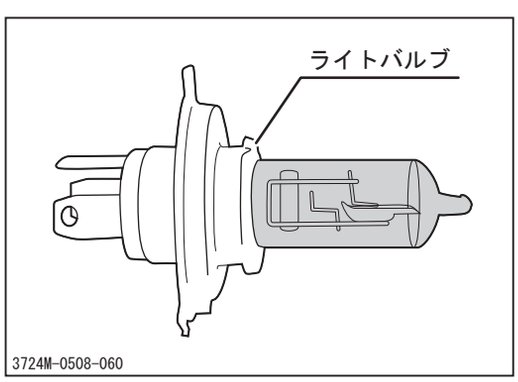
・ライトバルブを素手で触らないでください。バルブの寿命が縮まるおそれがあります。



1. ライトユニット裏面からラバーブーツを取り外します。



2. コネクタをライトユニットから取り外します。
3. クリップを外し、ライトバルブを取り出します。



4. ライトバルブを新品と交換します。
5. コネクタをライトユニットに取り付けます
6. ラバーブーツを取り付けます。

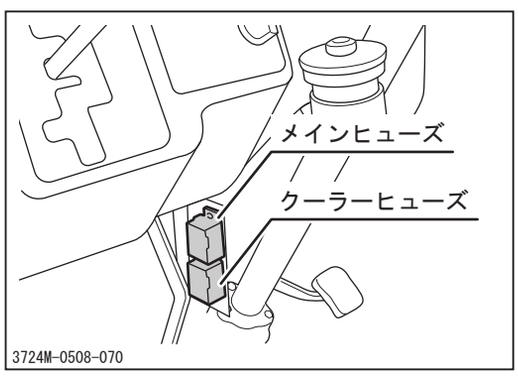
アドバイス

・指定バルブ：☞37ページ

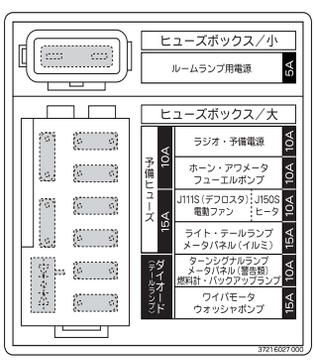
ヒューズの交換

⚠ 注 意

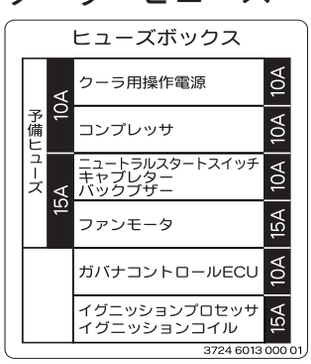
・ヒューズ交換の際は、必ず同じ負荷容量のものと交換してください。

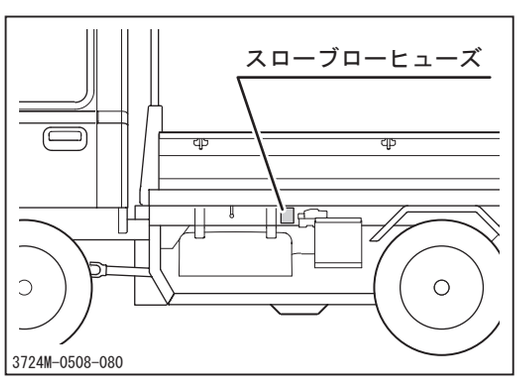


メインヒューズ

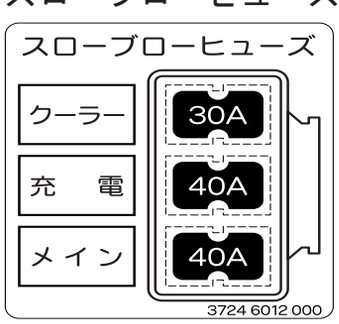


クーラーヒューズ





スローブローヒューズ



使用後のお手入れ

⚠ 注　意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

⚠ 警 告

・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

⚠ 注 意

・エンジンや操作パネルの水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。

・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。

・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。

1. **「駐車のしかた」**（☞24ページ）の手順に従い、車両を駐車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。（☞53ページ）
4. エンジンオイルを交換します。（☞38ページ）
5. エアクリーナエレメントを清掃します。（☞43ページ）
6. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
7. 車両からバッテリを取り外し、バッテリ液の点検・補給を行います。（☞57ページ）
8. エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

アドバイス

・バッテリは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリを長持ちさせることができます。
・エンジンの長期保管の詳細については付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

不具合診断表

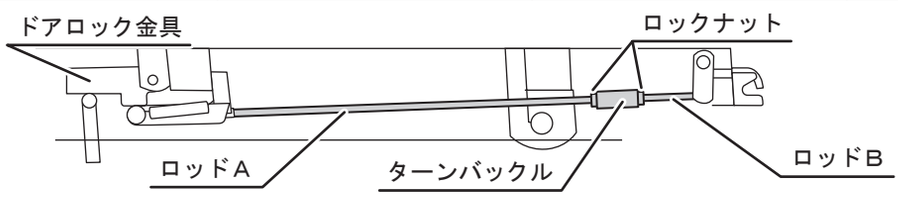
・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	ダイアグノーシスランプがエラー点滅する	エンジン保護機能の作動	→**「ダイアグノーシス（診断）機能」**を参照し、販売店へエラーコードをご連絡ください。	67ページ
	エンジンがかからないまたはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	15ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリの容量不足	→バッテリ液を補給する →バッテリを充電する →バッテリを交換する	57ページ 57ページ
		バッテリ端子の外れまたは断線	→接続または修理する	
		ヒューズ切れ	→交換する	60ページ
		エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する	39ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	44ページ
		その他（上記以外）	→**「始動のしかた」**の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	18ページ
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	15ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	20ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	15ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

6 不具合発生時の処置

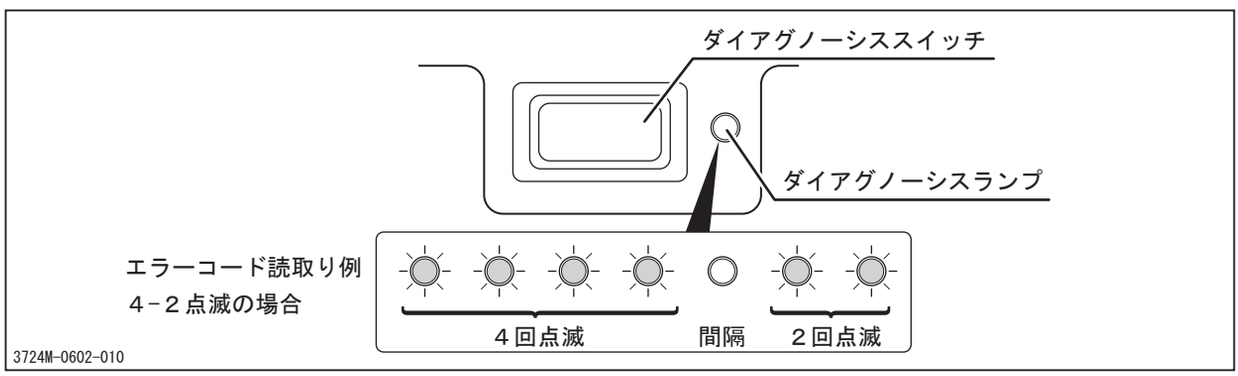
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
エンジン関連	アイドリング不良（エンジン回転にムラがある）	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	43ページ
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い		→販売店へお問い合わせください	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	39ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	43ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	20ページ
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	43ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	白煙が多量に出る（排気状態の不良）	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	39ページ
		エンジンオイルの粘度不適正	→適正なオイルと交換する	39ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーが引っかかる		→販売店へお問い合わせください	
走行装置関連	D、R、またはLレンジに入れてアクセルを踏み込んでも車が動かない	確実に変速（シフト）していない	→確実に変速（シフト）する	22ページ
		ブレーキが効いている	→ブレーキを解除する	
		その他（上記以外）	→**「運転のしかた」**の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	21ページ

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置	参照
走行装置関連	トランスミッション付近から異音がする		→販売店へお問い合わせください	
	変速できない		→販売店へお問い合わせください	
制動装置関連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪いまたは片効きする	ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
	ブレーキペダルの遊びが過大	調整不良	→販売店へお問い合わせください	
荷台関連	後ドアの開閉不良	ドアロックの調整不良	→ターンバックルを調整する（下記参照）	
	 3724M-0601-010			
油圧装置関連	油圧装置が作動しないまたは作動不良	作動油の不足または劣化	→補給または交換する	54ページ
		ベルトの調整不良	→調整する	56ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
車体関連	車体の異常振動	タイヤ空気圧不良	→タイヤの空気圧を調整する	47ページ
		タイヤ取付けボルトの緩み	→ボルトを締める	
		タイヤの亀裂	→交換する	
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	
電装品	前照灯の点灯不良	バルブ切れ	→交換する	59ページ
		ヒューズ切れ	→交換する	60ページ
		その他（上記以外）	→販売店へお問い合わせください	

ダイアグノーシス（診断）機能

・本車両にはエンジンの状態を診断し、異常発生時に警告するダイアグノーシス（診断）機能があります。異常の種類によっては、障害を防止するためダイアグノーシス機能が働きエンジンの動作を制限することがあります。エンジンの動作に異常が感じられる場合は、ダイアグノーシススイッチをＯＮにし、ダイアグノーシスランプがエラー点滅していないか確認してください。

・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。



1. ダイアグノーシススイッチを押してＯＮにします。ダイアグノーシス機能で異常が診断されなければ、ダイアグノーシスランプは一定間隔で点滅します。
2. ダイアグノーシスランプが不定間隔で点滅する時はエラーが診断されたことを表します。下の表でエラーコードを確認し、販売店にご連絡ください。

ランプ点滅	項　目	ＮＧ判定条件	異常発生の安全処理	対　処　方　法
常時点滅	正常	・異常なし	—	—
6 − 1 6 − 3	アクセルポジションセンサ	・アクセルポジションセンサへ接続されるハーネスの断線 ・アクセルポジションセンサ異常時	アイドル回転1400rpmに固定	・コネクタ部接続チェック ・コネクタ接続部水入り可否チェック ・配線チェック ・センサ電圧チェック
4 − 2	水温センサ	・水温センサへ接続されるハーネスの断線 ・水温センサ異常時	水温を20℃固定で制御	・コネクタ部接続チェック ・コネクタ接続部水入り可否チェック ・配線チェック ・センサ電圧チェック

ランプ点滅	項　目	ＮＧ判定条件	異常発生の安全処理	対　処　方　法
1 － 4	オーバーラン	・エンジン回転数≧4000rpmの状態が10秒以上継続した時	スロットルバルブを閉じる（メインスイッチをＯＦＦにするまで継続）この間はアクセルを踏んでもアイドルのまま	・スロットルバルブやスロットルレバーの引っ掛かり有無チェック
1 － 5		・エンジン回転数≧5000rpmとなった時		
7 － 1	出力トランジスタ	・電源側トランジスタ異常	スロットルバルブを閉じる（バックアップ電源をＯＦＦするまで継続）この間はアクセルを踏んでもアイドルのまま	・ＥＣＵ端子間電圧チェック
7 － 2		・ＧＮＤ側トランジスタ異常		

7　本機の移送および本機での移送

本機の移送

トラックへの積み降ろし要領

⚠ 警　告

・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。

・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。

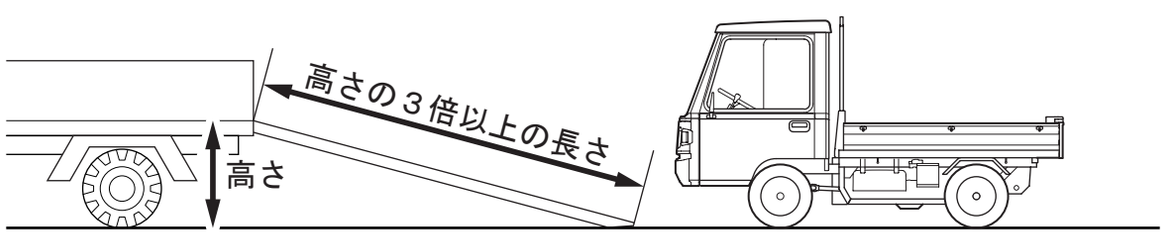
・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの3倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。

・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。

・前進でゆっくりと積み込んでください。

・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。

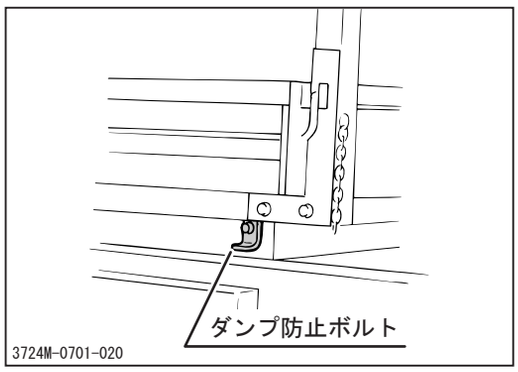
・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。



3724M-0701-010

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進にてゆっくりと積み込みます。
4. **「駐車のしかた」**（☞24ページ）の手順に従い、車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

本機での移送



アドバイス

・本機に小型運搬車等を積み込んで移送する場合は、ダンプ防止ボルトを取付け、荷台を必ず固定してから作業をしてください。

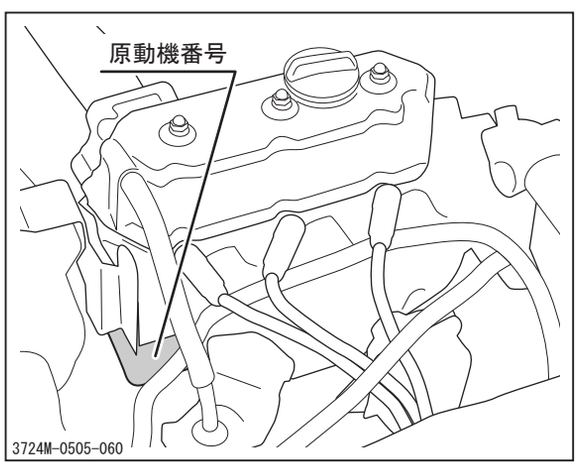
小型特殊自動車登録申請の手引き

この車の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。（詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください。）

※市町村役場の登録申請書記載事項

搭載エンジン	ダイハツ　DM７００G
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイＪ２００
型式	チクスイＪ２００
年式	年式は購入された年を記入してください。
原動機番号	＊エンジンの打刻を見て記入してください。
原動機総排気量	697cc
車台番号	＊車台番号については、キャビン右側後面に打刻してあります。
型式認定番号	申請中
形状	ホイールキャリア

原動機番号



車台番号